

様式第4 [基本計画標準様式]

- 基本計画の名称：伊勢市中心市街地活性化基本計画
- 作成主体：三重県伊勢市
- 計画期間：令和3年度4月から令和7年度3月まで（5年間）

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

[1] 地域の概況

<位置>

伊勢市は三重県東部の志摩半島北部に位置し、東は朝熊山を境に鳥羽市、志摩市、西は明和町、玉城町、度会町に、南は南伊勢町、北は伊勢湾に隣接している。

総面積は208.35 km²を有し、三重県全体の約3.6%を占めている。

広域的な位置づけとしては、中部圏の中心都市名古屋からは約80km、近畿圏の中心都市大阪、京都からは約110kmの距離があり、距離的条件等からは、中部圏や近畿圏とほぼ同じ条件となっている。

図一 位置図



<地勢>

市域は伊勢志摩国立公園と国の名勝に指定される二見浦を含む自然美豊かな環境を持っている。神宮林を含む東部から南部にかけての山林は、市域の面積の約50%を占めており、神宮林がその半分を占めている。この朝熊ヶ岳から朝熊山地を経て鷲嶺に連なる山並みを市街地の背景として、西部の広々とした田園地帯が市街地を取り囲み、山地から流れる宮川、五十鈴川、勢田川などの河川が、長い年月を経てつくり出してきた沖積平野へとつながり、伊勢湾に流れ込んでいる。

北部の平坦部や田園地帯を中心として約12万人が暮らす市街地が形成されており、東西に伊勢湾の海岸線がはしる。

年間平均気温は16.2°C、最高気温は38.0°C（7月）、最低気温は-6.0°C（2月）となっており、比較的温暖な気候である。年間の降水量は2,313.3ミリとなっている。

図一地形図



<沿革>

伊勢には、古くから全国各地より神宮を目指して大勢の人々が訪れてきたことで、情報が集積し、独自の文化が形成され、人々の間には様々な交流が生まれた。交流の歴史が都市としての中心性を高め、多様な活動の場をつくり、市民の「もてなしの心」を育て、現在の伊勢市の姿をつくりあげたといえる。

また、神宮の建築様式に代表される「生成り」の文化をはじめ、伊勢は日本の精神文化の「はじまり」のまちであるといえ、時を越え培われた豊かな歴史・文化は、今でも素朴で美しいまちなみと市民の生活のなかに多様な形で継承されている。

伊勢は、伊勢神宮の鳥居前町として発展し、江戸時代には江戸幕府が伊勢神宮の管理を目的とする山田奉行所を設置した。山田奉行所は大岡越前として知られる大岡忠相が奉行を務めたことがあり、このころ紀州藩にいた徳川吉宗により、のちに江戸町奉行に

抜擢されることになった。

中心市街地周辺は古くから「山田」と呼ばれ、そこを走る伊勢街道に沿って家々が建ち、市場が設けられるなど、街道を軸にまちが形成されてきた。また、御師邸（昔、お伊勢参りの旅行の斡旋や宿泊所の提供をする神官の家）がいくつも立ち並び、参拝者を迎える入り発展を遂げてきた。また、河崎地区は勢田川に面し、江戸時代には舟運を活かした伊勢の問屋街として栄え、食料や生活物資を供給する拠点となり、今もその名残が見られる。



参宮鉄道線

明治22年の町制施行、明治39年の市制施行、戦後の周辺町村合併を経て、昭和30年に「伊勢市」に改称され、平成17年11月の（旧）伊勢市、度会郡二見町、小俣町、御園村の合併により、13万人余りが生活する現在の伊勢市が形成された。

平成25年の第62回式年遷宮をピークに、現在でも、年間800万人を超える神宮参拝客が訪れ、そのなかで新たな交流が生まれ出されている。

<中心市街地の歴史的・文化的役割>

神宮の鳥居前町として『伊勢に行きたい　伊勢路がみたい　せめて一生に一度でも』と伊勢音頭に唄われたように、かつて伊勢はあこがれの地であり、全国からの参拝者を迎えるにぎやかな町として発展した。

明治から昭和にかけて参宮鉄道線（現在のJR東海参宮線）・参宮急行電鉄本線（現在の近鉄山田線）・伊勢電気鉄道本線（後の参宮急行電鉄伊勢線。1942年廃止）など鉄道が次々と開通したことにより参拝客が増加した。



伊勢電気鉄道本線と山田郵便局



錦絵「文政十三年庚寅春御影参道の粧」

おはらい町のある宇治は内宮の鳥居前町として、中心市街地区域に該当する山田の町は外宮の鳥居前町として発達し、古くから多くの人々を迎え、様々な交流の中で、歴史的なまちなみや建造物をはじめとした様々な地域固有の歴史文化が培われてきた。

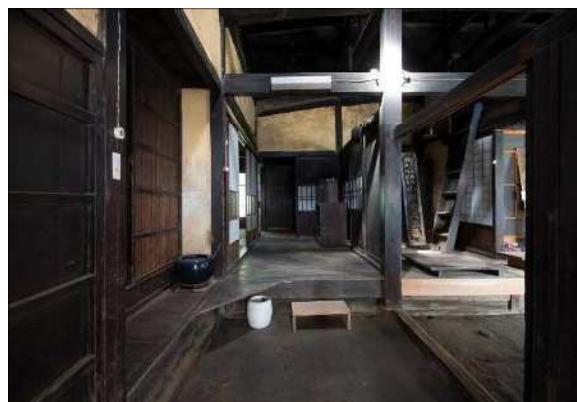
伊勢のまちは自治都市であり、宇治には宇治会合、山田には永享年間（1429-41）に山田三方という自治組織が形成され、宇治とともに、中世末期から近世まで自治が行われていた。中世の山田では、三日市や八日市などの市が開かれ、町全体が市場町としておおいに賑わった。また、戦国期から御師の活動が活発化し、山田や宇治は鳥居前町として参拝者の受け入れを行い、御師邸に参宮客が集まるようになり、近世になると御師の町となっていました。本居宣長の『玉勝間』には、宝永2年(1705)に50日間で362万人が参拝したと記されているように、多くの人々が伊勢を目指した。

その参拝客をもてなしたのが御師であり、江戸時代、最も多い時には、宇治と山田の町あわせて約900家あった。



丸岡宗大夫邸（平成27年登録）

中心市街地区域にある丸岡宗大夫邸は山田地区に現存する唯一の御師邸であり、平成27年には、国の登録有形文化財となっている。



丸岡宗大夫邸（主屋内部）



丸岡宗大夫邸（主屋内部）

河崎は、一説には鎌倉期の『伊勢新名所絵歌合』にみえる河辺里ともいわれ、江戸末期の『勢陽五鈴遺響』によると、戦国初期の長享年間に河崎宗次が領有し、防衛のため惣門と惣堀（環濠）を備えた町として伝えられている。16世紀後半には河崎から両宮鳥居前町

である宇治、山田への陸上交通路も整備され、水陸の交通路を切り替えるターミナル機能を持った商業中心地域であった。また、三河地方や遠江からの海路による船参宮客を迎える、江戸期には参拝者が宿泊する宇治、山田に物資を供給する一大問屋街に成長を遂げ、『伊勢の台所』と呼ばれるほど繁栄した。

中心市街地区域内を東西に走る県道伊勢南島線は参宮街道であり、沿道には切妻、妻入りのまちなみや、道標、伊勢街道と伊勢本街道の合流地点である筋向橋など、街道としての歴史を彷彿させる歴史資源が点在している。また、遷宮行事の一つであるお木曳行事・お白石持ち行事が行われる道であり、中心市街地区域のある外宮領では、宮川から本道路を通り、外宮北御門まで陸曳が行われる。

お木曳行事・お白石持ち行事は市民が執り行う民俗行事であり、昭和40年に市の無形民俗文化財に、昭和41年に文化庁の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」として選択され、記録保存が行われた。第60回遷宮時のお木曳行事より神社本庁の関係者を受



お白石持行事の様子（一日神領民）

け入れるようになり、第61回には関係団体を拡げ、第62回には全国からの参加者を一日神領民として募り盛大に行われた。

令和15年に執り行われる第63回式年遷宮にむけて、令和7年から式年遷宮行事が始まる。

また、神宮で執り行われている年間千五百余りのお祭りの中でも、最も重要な祭典となる神嘗祭は、その年に収穫された新穀を最初に天照大御神にささげて、御恵みに感謝するお祭りである。その神嘗祭を奉祝する行事として、その年収穫されたお初穂を神宮に奉納する初穂曳が毎年10月15日・16日に開催されており、式年遷宮行事であるお木曳行事・お白石持ち行事を伝えることを目的に、昭和47年から毎年続いている。



お白石持行事の様子（一日神領民）

神嘗祭は、その年に収穫された新穀を最初に天照大御神にささげて、御恵みに感謝するお祭りである。その神嘗祭を奉祝する行事として、その年収穫されたお初穂を神宮に奉納する初穂曳が毎年10月15日・16日に開催されており、式年遷宮行事であるお木曳行事・お白石持ち行事を伝えることを目的に、昭和47年から毎年続いている。



初穂曳の様子



初穂曳の様子



宇治山田駅と神都記念館

中心市街地区域には、神宮をはじめ、国の登録有形文化財となった宇治山田駅（平成13年登録）、丸岡宗大夫邸（平成27年登録）、小西萬金丹（平成27年登録）、伊勢河崎商人館（平成13年登録）、現在はレストランとして活用されている旧山田郵便局電話分室（令和元年登録）が点在している。また、これら以外にも、現在でも営業している木造3階建て旅館の山田館などがあり、山田の町の古い歴史を物語っている。



近鉄宇治山田駅（平成13年登録）



小西萬金丹（平成27年登録）



旧山田郵便局電話分室（令和元年登録）



伊勢河崎商人館（平成13年登録）

本市の歴史的なまちなみを形成する町屋の特徴は、切妻、妻入りであり、外壁を「きざみ囲い（さら子下見板張り）」と呼ばれる杉板で覆ったものである。このような建物が町のあちらこちらにあり、世古と呼ばれる路地との景観は伊勢特有のものである。

特に、「伊勢の台所」として繁栄した河崎では、そり屋根やむくり屋根などで河崎商人が競うように意匠を凝らした商家や、濡れガラスと呼ばれる煤と魚油で練った塗料を塗った黒色の蔵は、まちなみには重厚感を感じさせる。河崎では、このような築百年以上経過する町屋や蔵を再生し、店舗等として活用している事例も多く見られる。

河川改修により河川景観は変化してしまったが、勢田川から臨む景観は河崎特有のものである。



河崎本通りの歴史的まちなみ



勢田川からの景観

市内に点在する歴史的資源の中には、伊勢まちかど博物館として、伊勢の手工芸や歴史を伝える個人のコレクションなど、伊勢の生きた文化を紹介しているところもある。河崎の「伊勢春慶デザイン工房」では、本市の伝統産業『伊勢春慶』を現代に復活させ、製造、販売を行っている。

山田の御師には、茶人、国学者、書家などの文化人も多く、芭蕉をはじめ多くの著名人との交流があり、商業の中心地となった山田は、文化の中心地としても花開いた。



伊勢春慶デザイン工房



河崎まちなみ館

図一 中心市街地における歴史的資源分布図



資料：文化振興課（令和元年度）

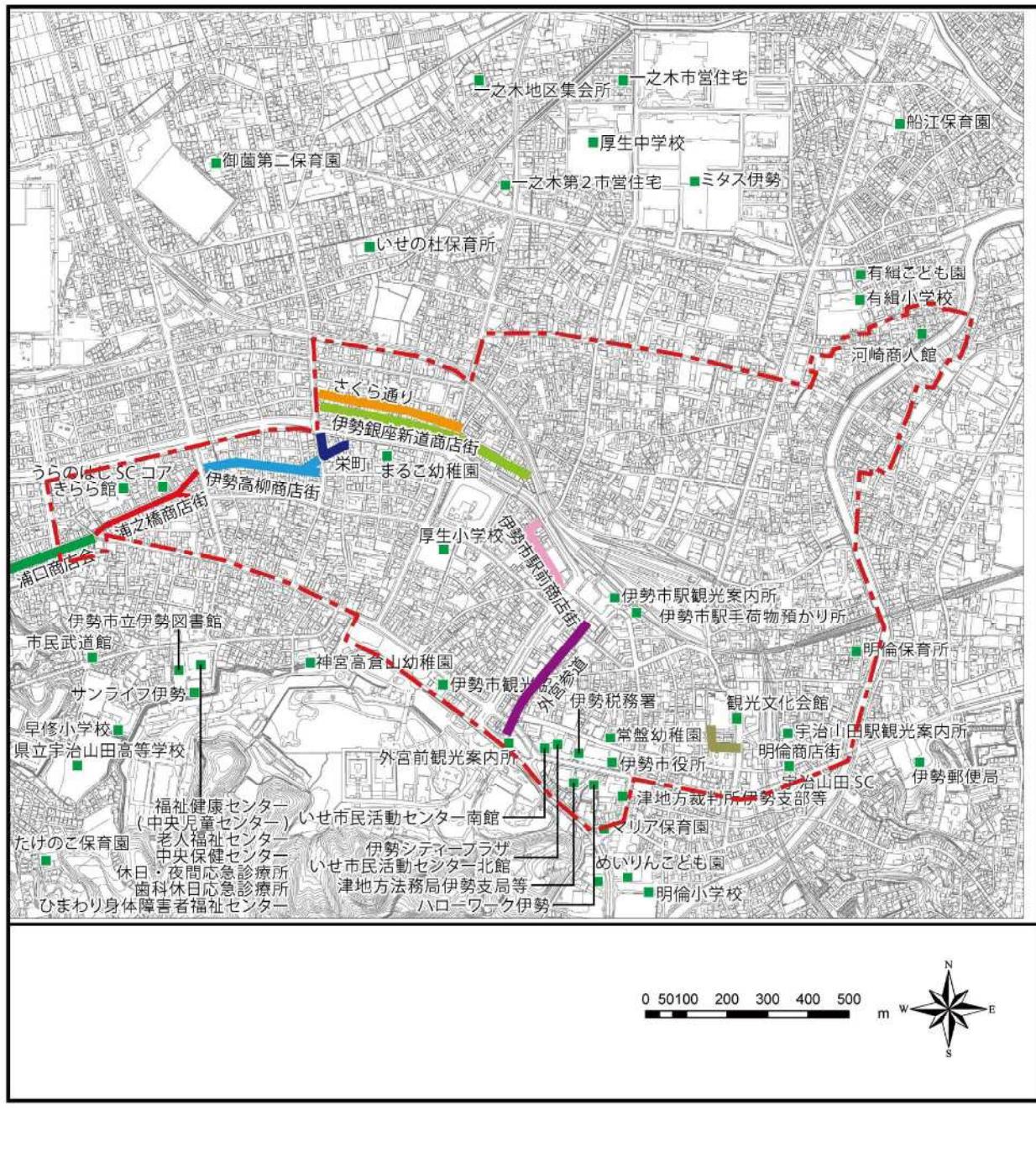
[2] 地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

(1) 中心市街地における都市機能・人口状況

①中心市街地における都市機能の状況

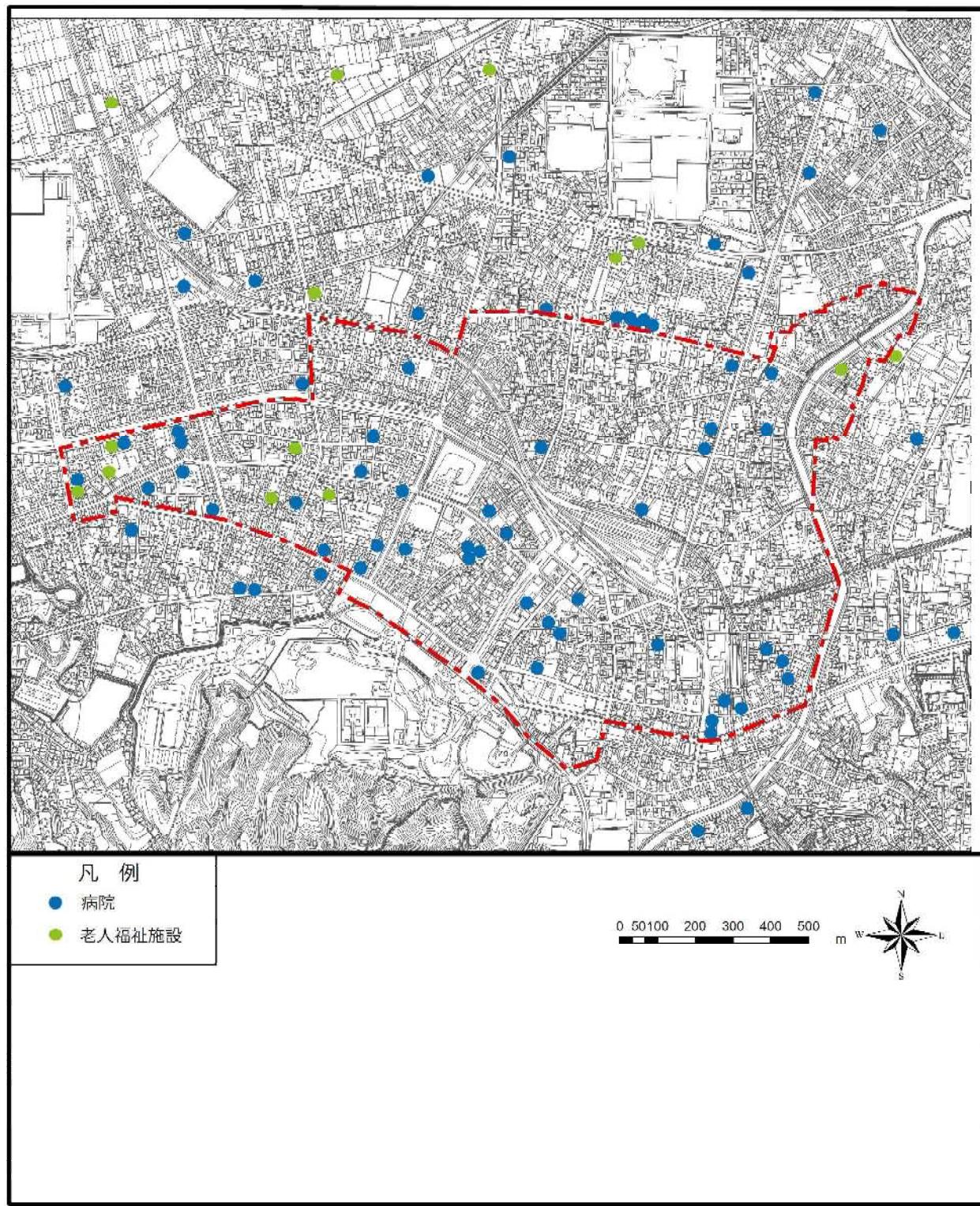
中心市街地には、市役所や税務所、法務局など市民の生活を支える行政機関や、市民・文化活動の中心となるいせ市民活動センターや観光文化会館などの施設が立地しており、また市内にある9商店街のうち8商店街が含まれるなど、伊勢市の社会経済活動の「中心地区」で、古くから神宮の鳥居前町として栄え、山田とよばれ地域の「顔」として伊勢市の発展を支えてきた場所である。

図一 中心市街地における都市機能分布図



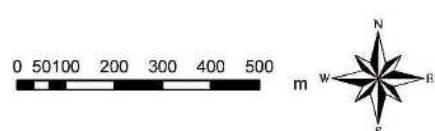
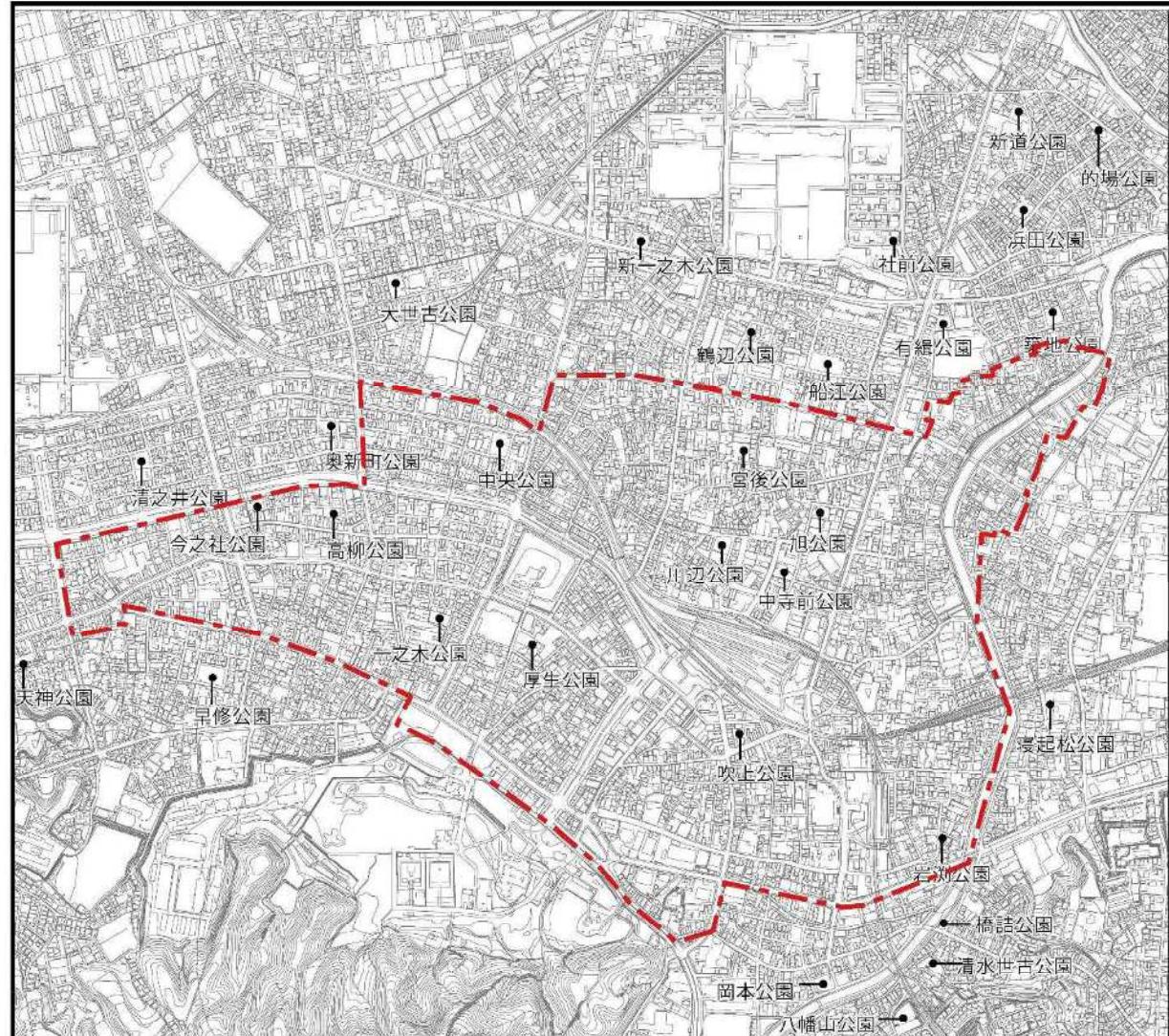
また、公共機関や文化施設が集約されているほか、医療機関や老人福祉施設が次の図のとおり点在している。特に医療機関については、伊勢市全体では1haあたり、0.008軒に対し、中心市街地内では0.24軒と高い集積率となっており、利便性の高い区域となっている。（令和元年6月末現在、伊勢地区医師会調べ）また、老人福祉施設についても、伊勢市全体では1haあたり、0.004軒に対し、中心市街地内では0.052軒と多い傾向にある。

図一 中心市街地における医療機関及び老人福祉施設分布図



中心市街地内の市民が憩い集える身近な公園においては、それぞれの自治会やまちづくり協議会が、地域コミュニティを形成するためのイベント等を多数実施しており、にぎわい創出、生活環境の向上を担う公共空間として必要な場所となっている。

図一 中心市街地における公園の分布図

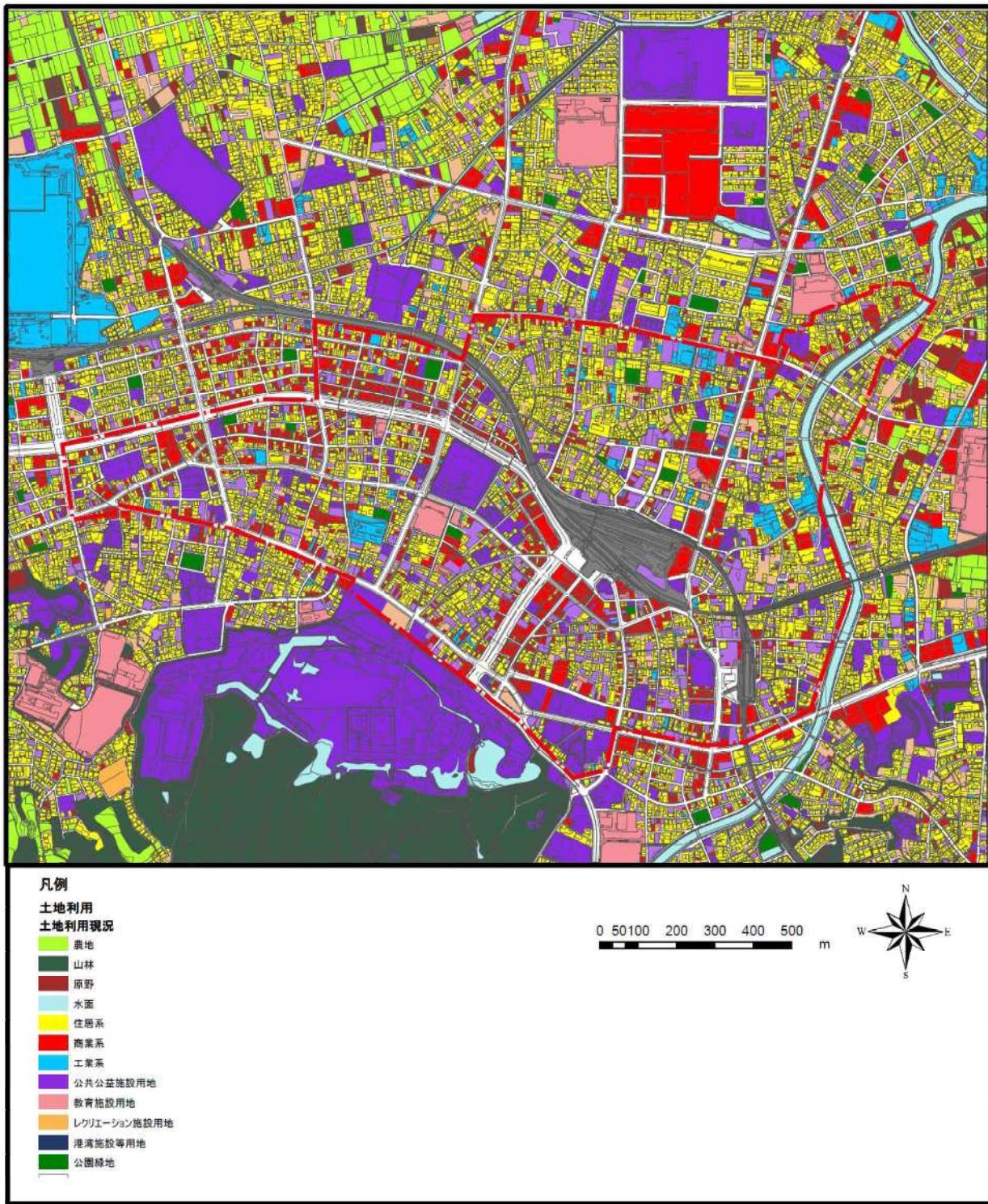


資料：都市計画基礎調査（平成28年度）

②中心市街地における土地利用の状況

中心市街地には、商業系や住居系での土地利用が集積しており、社会経済活動の中心地区となっている。

図一 中心市街地における土地利用現況図



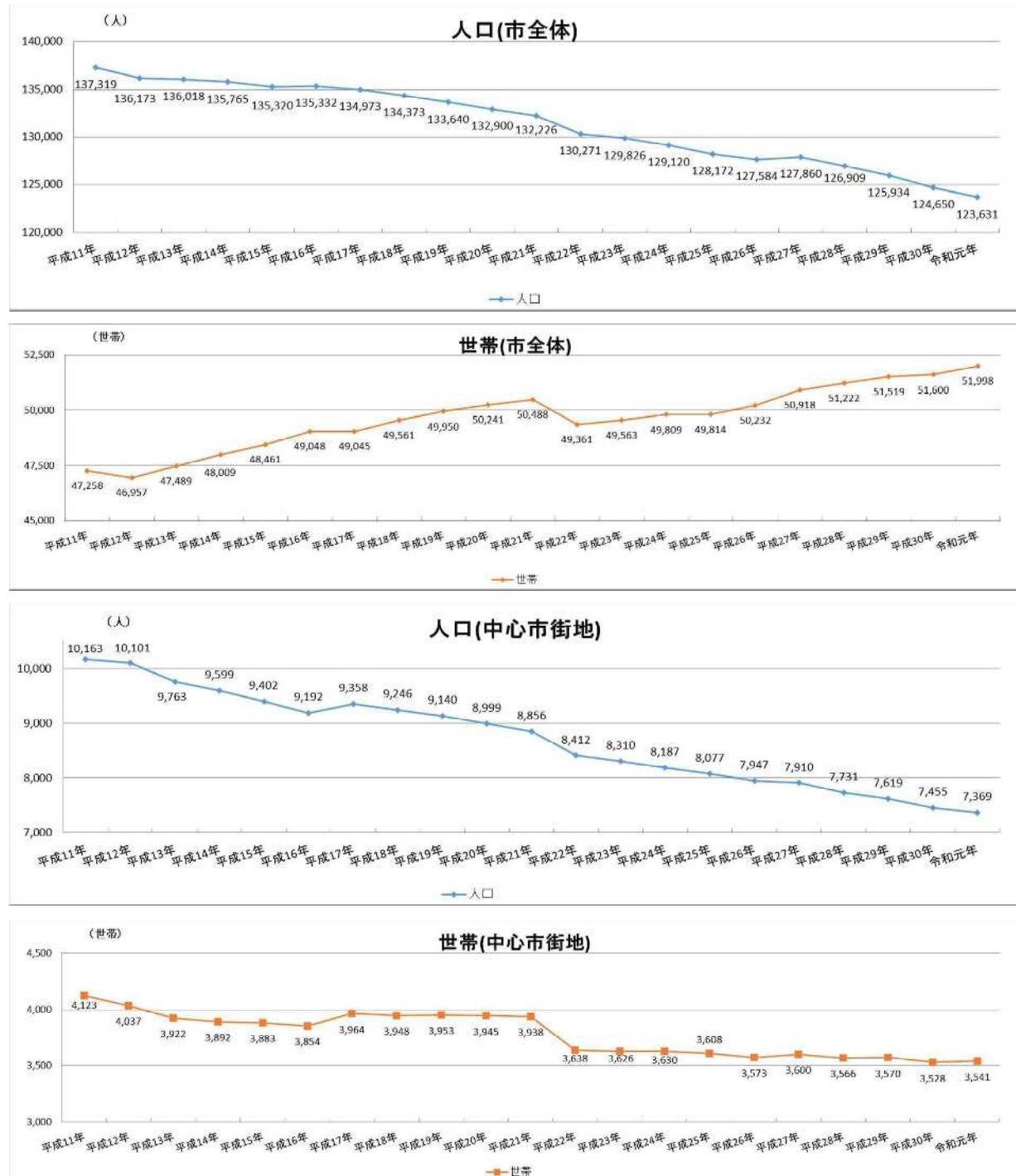
資料：都市計画基礎調査（平成30年度）

③市全体・中心市街地ごとの人口動態等

◇人口と世帯数の推移

伊勢市全体人口は、徐々に減少しているが、世帯数は人口に反し、増加傾向となっている。

中心市街地においても、人口は同様に減少しているが、世帯数は横ばい傾向である。

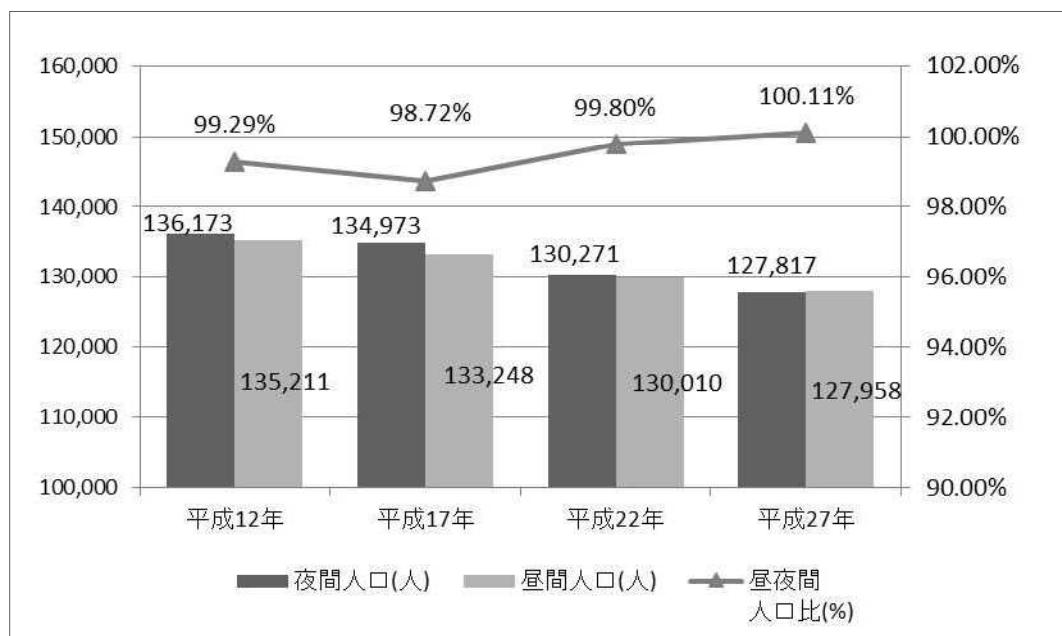


【対象町丁】 岩渕1丁目、岩渕2丁目、吹上1丁目、吹上2丁目、河崎1丁目、河崎2丁目、河崎3丁目、本町、宮後1丁目、宮後2丁目、一之木1丁目、一之木2丁目、一志町、大世古1丁目、大世古2丁目、曾祢1丁目、宮町1丁目、常磐2丁目

資料：伊勢市情報調査室(各年10月1日現在)
平成17年以前は合併前の旧市町村の合計

◇伊勢市の昼夜間人口の推移

本市の昼夜間人口は、就業地及び住宅地としての均衡が概ね保たれているが、平成27年度には比率が100%を超え、やや就業地としての機能を持ち始めてきている。

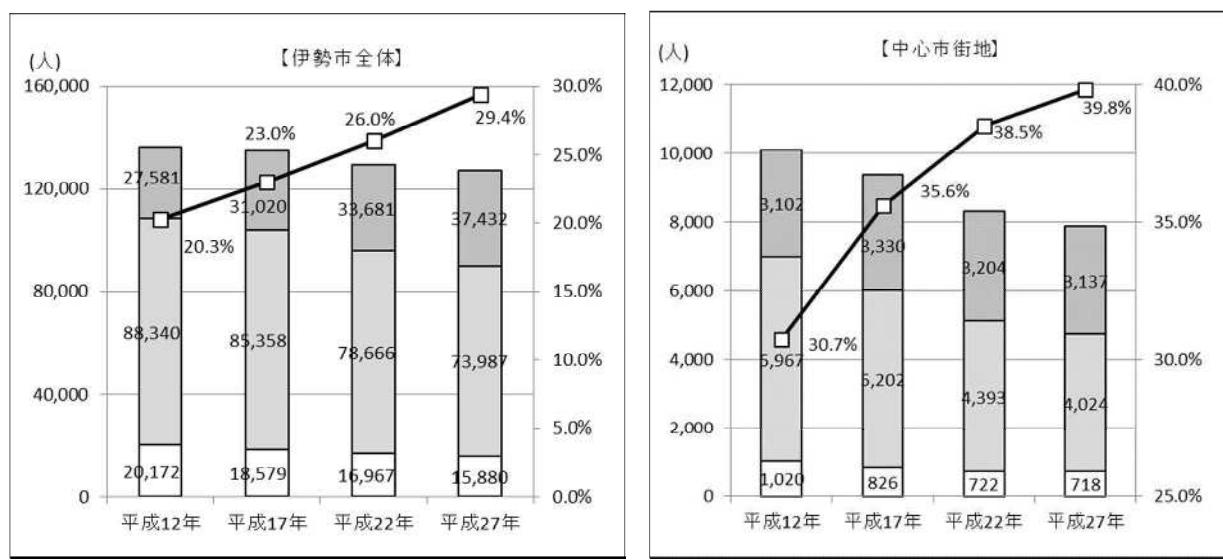


資料：国勢調査（各調査年）
平成17年以前は合併前の旧市町村の合計

◇年齢別人口の推移

本市の年齢別人口は、年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15～64歳）は減少しているが、老齢人口（65歳以上）は増加し続けている。

平成27年度の国勢調査結果では、高齢者人口の割合は、市の全体人口に対し、29.4%と高い数値であり、特に中心市街地では生産年齢人口の減少が著しいことから、高齢化のスピードが速く39.8%となっている。

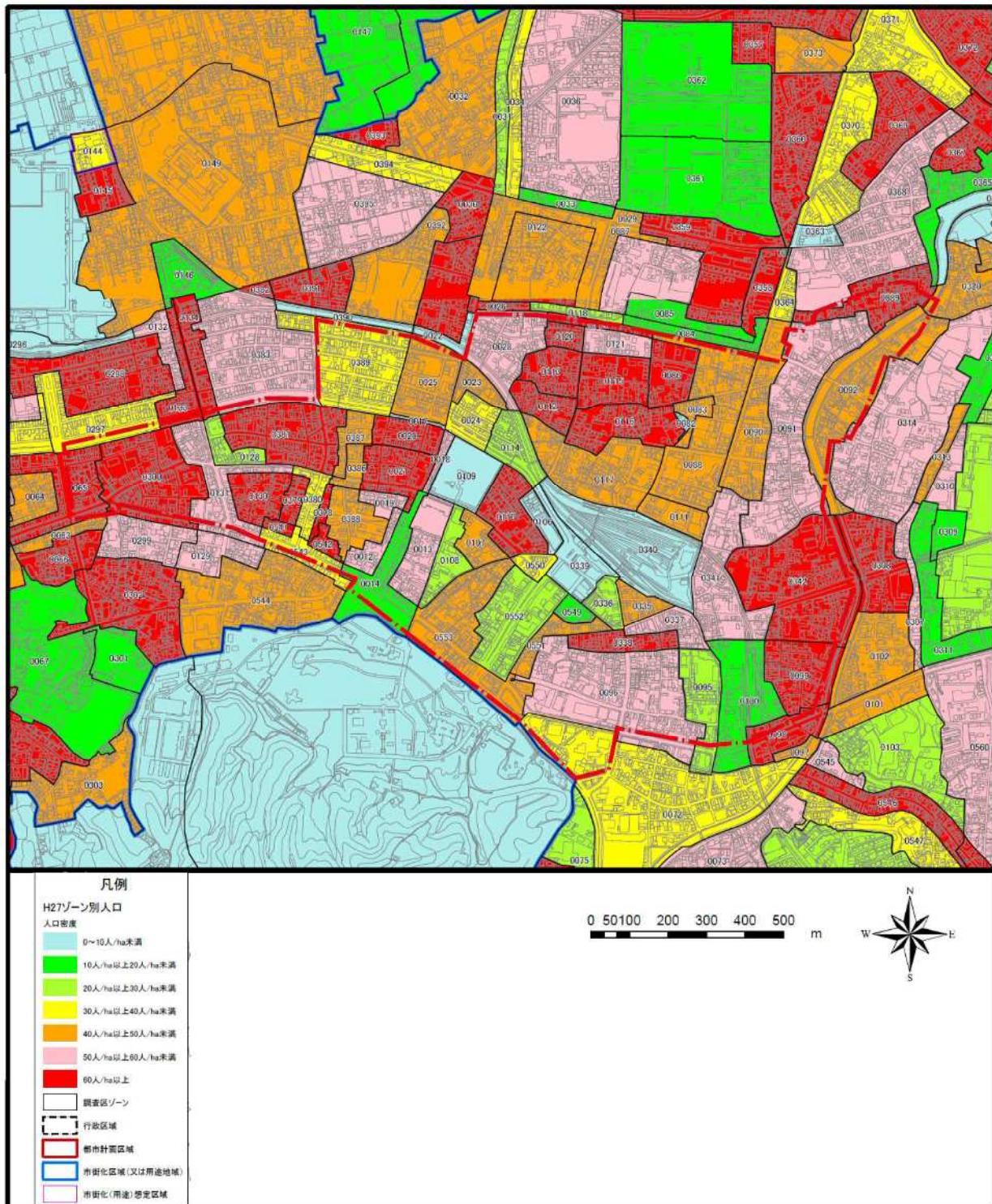


資料：国勢調査（各調査年）
平成17年以前は合併前の旧市町村の合計

◇人口集中地区

中心市街地の人口密度は、商業系土地利用集積地や公共公益施設などを除き、大半が人口集中地区（D I D）として指定される 40 人/ha を上回る状況となっている。

図一 中心市街地における人口密度図



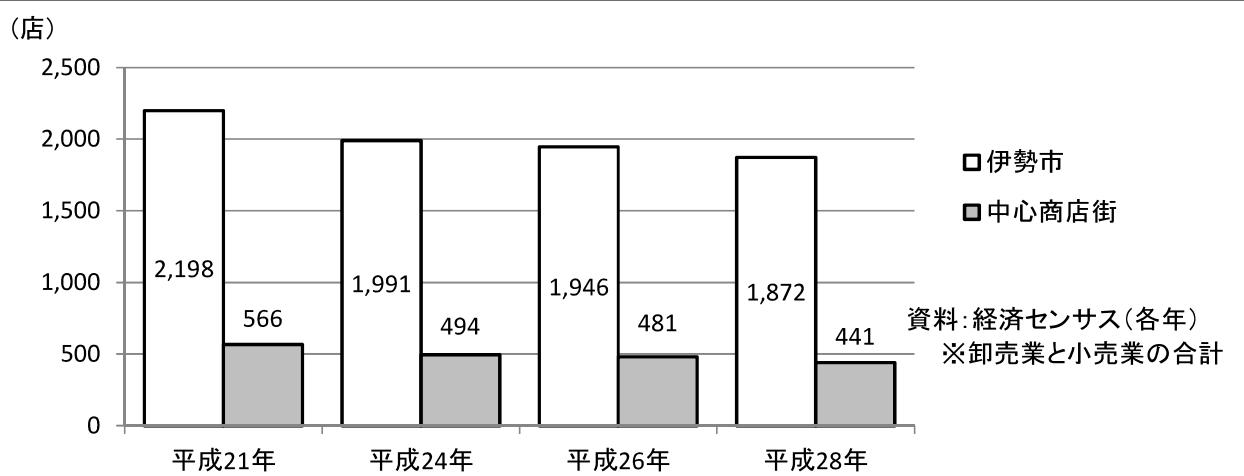
資料：都市計画基礎調査（平成28年度）

(2) 経済活力関係

□商業に関する状況

①中心商店街の小売店舗数の状況

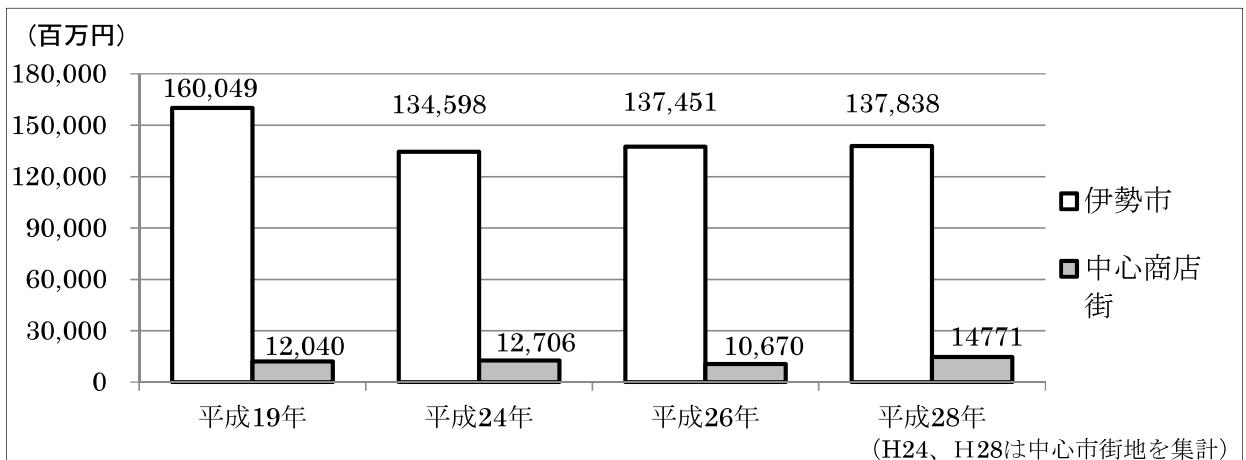
本市の小売業の商店数は、平成21年の2,198店舗から、平成28年には1,872店舗と減少が続いている。この傾向は中心商店街における商店街の事業所数も同様で、平成21年の566店舗から、平成28年には441店舗と減少が続き、減少の割合は本市全体よりやや高くなっている。要因として、中心市街地内の人ロ減少・高齢化が進んでいることにより、店舗来訪者の減少による店舗経営の悪化、また店舗後継者不足に伴う閉店などによるものと推測される。



【対象町丁】 岩渕1丁目、岩渕2丁目、吹上1丁目、吹上2丁目、河崎1丁目、河崎2丁目、河崎3丁目、本町、宮後1丁目、宮後2丁目、一之木1丁目、一之木2丁目、一志町、大世古1丁目、大世古2丁目、曾祢1丁目、宮町1丁目、常磐2丁目

②伊勢市及び中心商店街の小売販売額の推移

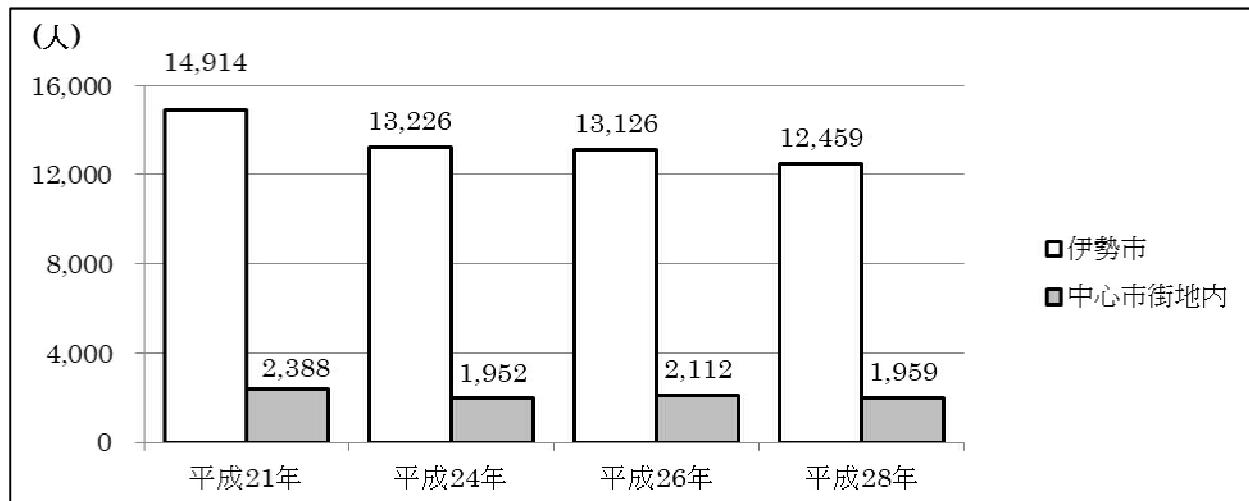
本市の小売業の小売販売額は、平成19年から平成24年に大きく落ち込み、平成26年からは微増している。中心商店街における小売販売額は、平成26年に落ち込んだものの回復傾向にある。平成25年の神宮式年遷宮以降、観光客が増加し、伊勢市駅周辺の店舗が増えた事、また平成28年に開催された伊勢志摩サミットにより外国人観光客が増加したことが要因だと考えられる。



資料：商業統計調査（H19、H26）
経済センサス（H24、H28）

③中心商店街の小売従業者数の状況

本市の小売業の従業者数は、平成21年の14,914人から、平成28年には12,459人と減少が続いている。中心市街地においては、平成24年までは減少しているが、それ以降はほぼ横ばいとなっており、式年遷宮以降、伊勢市駅周辺で観光客によるにぎわいが創出され、飲食店等の新規出店が相次いだことから、本市全体における中心市街地内の従業者数の割合はやや高くなっている。



資料：経済センサス（各年）

※卸売業と小売業の合計

【対象町丁】 岩渕1丁目、岩渕2丁目、吹上1丁目、吹上2丁目、河崎1丁目、河崎2丁目、河崎3丁目、本町、宮後1丁目、宮後2丁目、一之木1丁目、一之木2丁目、一志町、大世古1丁目、大世古2丁目、曾祢1丁目、宮町1丁目、常磐2丁目

④中心商店街の店舗数の状況

中心商店街（伊勢市駅前、伊勢銀座新道、伊勢高柳、浦之橋、明倫）全体の店舗数は、平成12年の380店舗（7月1日時点）から平成17年の412店舗（1月26日時点）へと増加し、その後減少している。平成23年に増加するものの微減傾向を示し、令和2年（3月5日時点）は平成12年以降最小の334店舗となっている。閉店数は平成12年の101店舗（7月1日時点）から平成15年の80店舗（3月31日時点）へと減少し、その後は平成24年に140店舗（3月21日時点）と最大値を示すものの120店舗前後で微増と微減を繰り返している。

◇中心市街地の店舗数及び閉店数の推移



資料：伊勢市商工労政課（各年）

⑤中心市街地の大規模小売店舗の状況

本市内には、平成30年時点では、29店舗の大規模小売店舗が立地しているが、中心市街地内には、2店舗のみしか立地していない。

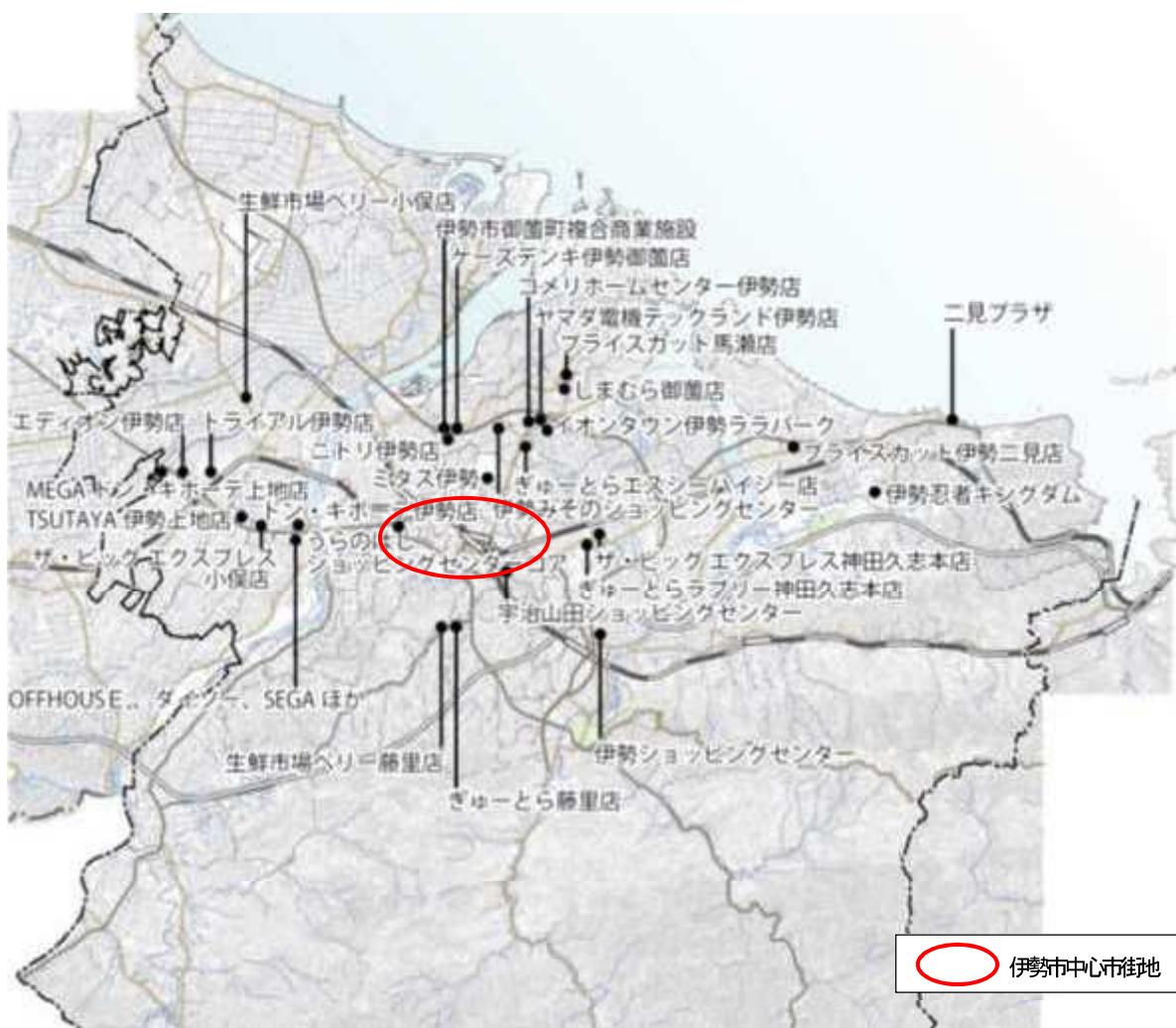
しかし、中心市街地区域に隣接しているミタス伊勢は、都市基盤も整備されていることから、市内全域からもアクセスしやすく日常的な求心力に繋がっている。ミタス伊勢が立地したことにより、大型小売店舗の郊外化で魅力が低下していた伊勢市駅北口エリアの魅力・利便性が向上し、中心市街地への居住人口を誘導する一因となっており、住居系の新築に繋がっていると考える。

◇中心市街地の大規模小売店舗の状況

| 番号 | 大規模小売店舗名 | 開店年月日 | 店舗面積 (m ²) | 備考 |
|----|-------------------|-----------|---------------------------|---------------|
| ① | うらのはしショッピングセンターコア | S58.3.10 | 1,604 | |
| ② | 宇治山田ショッピングセンター | S50.12.10 | 1,077 | |
| 参考 | ミタス伊勢 | H20.3.7 | 17,995 | 中心市街地活性化区域に隣接 |

資料：伊勢市商工労政課（平成30年）

図 伊勢市内の大規模小売店舗分布図



◇大規模小売店舗の状況

| 番号 | 大規模小売店舗名 | 所在地 | 中心市街地内 | 店舗面積 (m ²) |
|----|-----------------------|---------------|--------|------------------------|
| 1 | MEGAドン・キホーテ上地店 | 上地町3118番地ほか | | 6,959 |
| 2 | イオンタウン伊勢ララパーク | 小木町538番地ほか | | 17,431 |
| 3 | プライスカット伊勢二見店 | 二見町山田原117-1 | | 1,492 |
| 4 | 伊勢みそのショッピングセンター | 御薗町長屋2136ほか | | 7,720 |
| 5 | 伊勢ショッピングセンター | 伊勢市楠部町乙160-2 | | 20,017 |
| 6 | しまむら御薗店 | 伊勢市御薗町新開842ほか | | 1,268 |
| 7 | 生鮮市場ベリー小俣店 | 小俣町相合431番地ほか | | 3,279 |
| 8 | ザ・ビッグ エクスプレス神田久志本店 | 楠部町156-2ほか | | 3,022 |
| 9 | エディオン伊勢店 | 上地町2680-1ほか | | 1,900 |
| 10 | ヤマダ電機テックランド伊勢店 | 御薗町新開613番地ほか | | 3,528 |
| 11 | ケーズデンキ伊勢御薗店 | 御薗町長屋3103番地ほか | | 3,317 |
| 12 | ミタス伊勢 | 船江1丁目471番地1 | | 17,995 |
| 13 | 生鮮市場ベリー藤里店 | 藤里町603番1ほか | | 2,885 |
| 14 | 伊勢市御薗町複合商業施設 | 御薗町長屋2960ほか | | 2,616 |
| 15 | ニトリ伊勢店 | 御薗町長屋3074ほか | | 5,143 |
| 16 | ぎゅーとら藤里店 | 藤里町640 | | 1,594 |
| 17 | ぎゅーとらラブリー神田久志本店 | 神田久志本町1636 | | 1,881 |
| 18 | TSUTAYA伊勢上地店 | 上地町788-1ほか | | 1,718 |
| 19 | ザ・ビッグ エクスプレス小俣店 | 小俣町宮前296-1 | | 1,277 |
| 20 | ぎゅーとらエスシーハイジー店 | 船江3丁目16番51号ほか | | 2,999 |
| 21 | うらのはしショッピングセンターコア | 常磐2-1-11 | ○ | 1,604 |
| 22 | プライスカット馬瀬店 | 馬瀬町1113-1 | | 1,993 |
| 23 | コメリホームセンター伊勢店 | 御薗町王中島758 | | 5,000 |
| 24 | 宇治山田ショッピングセンター | 岩瀬2-2-18 | ○ | 1,077 |
| 25 | 二見プラザ | 二見町江580 | | 2,554 |
| 26 | 伊勢忍者キングダム | 二見町三津1201-1 | | 1,004 |
| 27 | OFF HOUSE、ダイソー、SEGAほか | 中須町858 | | 4,272 |
| 28 | ドン・キホーテ伊勢店 | 中須町627-3 | | 2,401 |
| 29 | トライアル伊勢店 | 伊勢市小俣本町341 | | 4,318 |

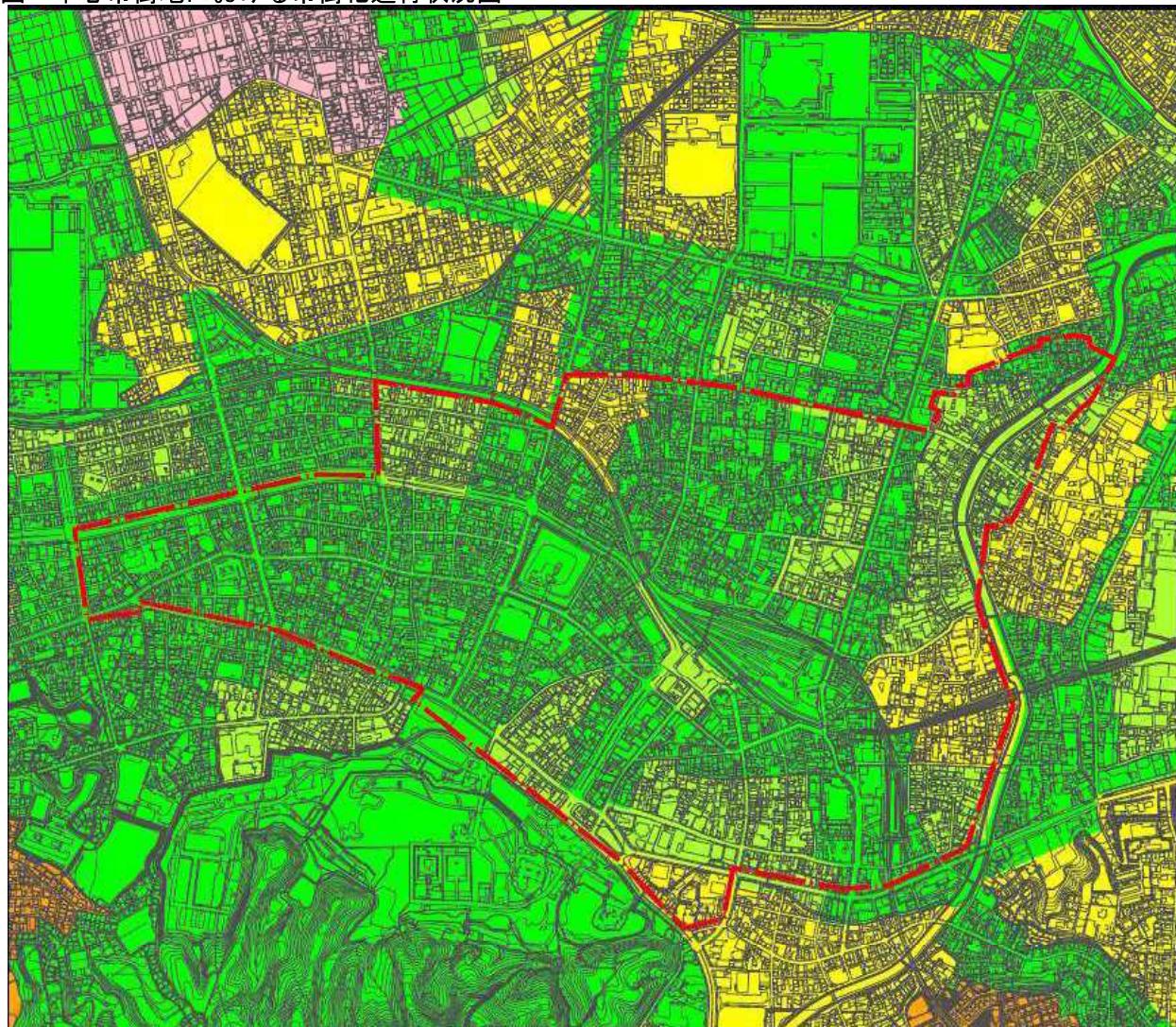
※店舗名は現状の名称を記載しています。また、名称、所在地は届出時のものとしているため、実際とは異なる場合があります。

資料：伊勢市商工労政課（令和元年）

⑥中心市街地の市街化進行状況

中心市街地の市街化進行状況は、伊勢市駅前や宇治山田駅前、中心商店街周辺では新築棟数が少なく、御薗町高向などの中心市街地周縁部での新築棟数が多くみられる。生産年齢人口が、中心市街地から地価が安価である地域へ新築することで市街化が進行している状況となっており、中心市街地の高齢化に繋がっている。

図一 中心市街地における市街化進行状況図



凡例

新築棟数

- 0~4棟
- 5~9棟
- 10~19棟
- 20~29棟
- 30棟以上

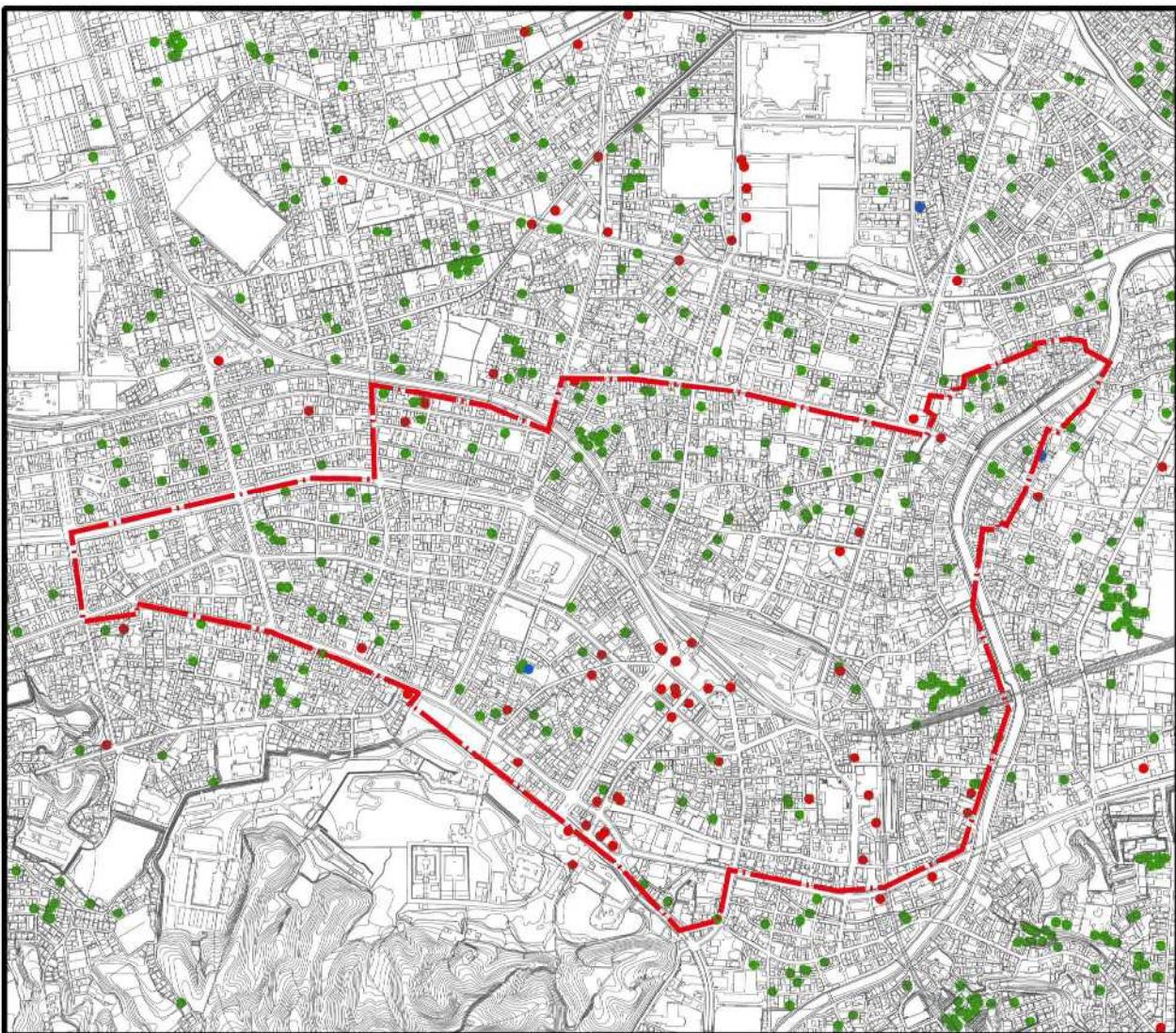
0 50 100 200 300 400 500 m



資料：都市計画基礎調査（平成28年度）

⑦中心市街地における新築状況

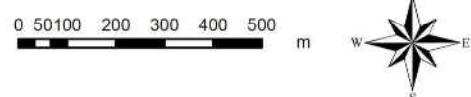
中心市街地の新築建物用途の状況は、伊勢市駅前や宇治山田駅前、ミタス伊勢周辺で商業系が散見され、その他の地区では住居系が多くを占める。



凡例

新築区分

- 住居系
- 商業系
- 工業系



資料：都市計画基礎調査（平成28年度）

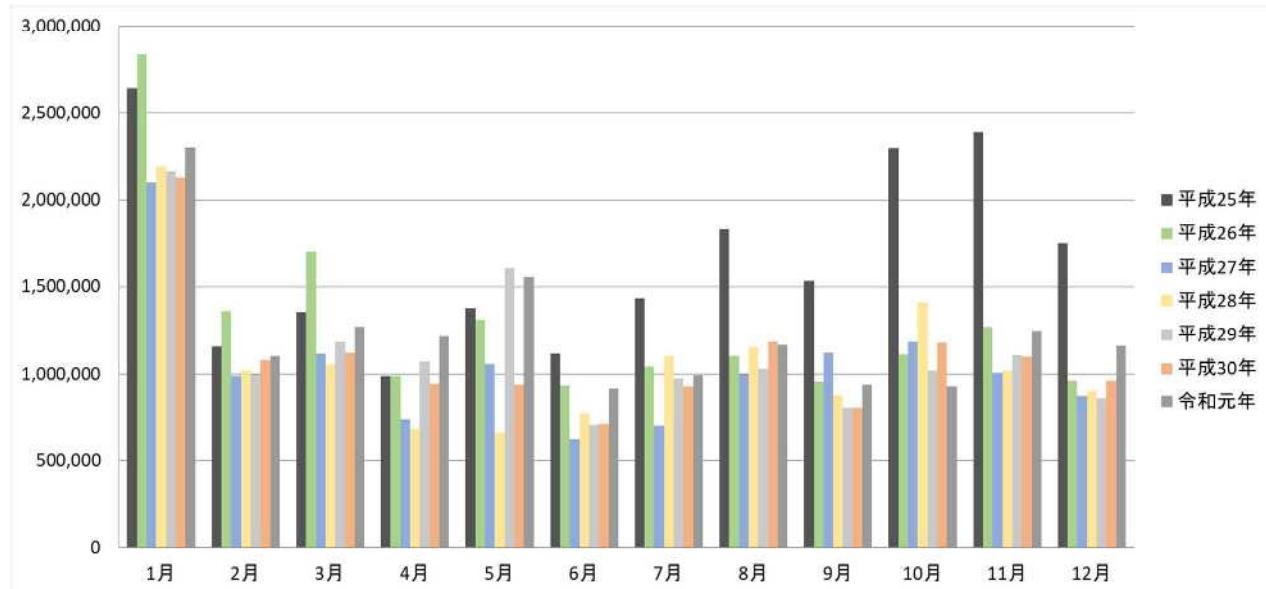
□観光に関する状況

①観光入込客数の状況

本市の観光入込客数は、伊勢神宮や二見興玉神社への参拝客が集中する1月が最も多く、令和元年は約230万人の観光客が訪れている。また、令和への改元に合わせ、4月、5月は沢山の観光客が訪れており、第62回式年遷宮が執り行われた平成25年を超えるにぎわいを見せていました。

例年の傾向として、6月、7月、9月の梅雨時期や暑い時期に観光客が減少しているが、次回の式年遷宮にむけて観光客が徐々に増加する時期であることから、今後の更なる情報発信や魅力ある旅行商品造成などの取組により増加させる余地はある。

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 平成25年 | 2,640,781 | 1,157,439 | 1,355,303 | 987,150 | 1,376,998 | 1,112,552 | 1,431,886 | 1,830,844 | 1,531,868 | 2,294,017 | 2,392,425 | 1,750,786 |
| 平成26年 | 2,842,123 | 1,357,665 | 1,698,678 | 987,436 | 1,308,546 | 932,043 | 1,042,970 | 1,102,676 | 956,481 | 1,109,584 | 1,266,827 | 960,984 |
| 平成27年 | 2,099,191 | 985,369 | 1,114,787 | 735,781 | 1,056,427 | 622,662 | 700,878 | 994,523 | 1,116,742 | 1,182,107 | 1,003,036 | 868,206 |
| 平成28年 | 2,194,056 | 1,018,978 | 1,049,533 | 681,638 | 661,765 | 770,046 | 1,100,961 | 1,152,056 | 875,450 | 1,409,929 | 1,019,972 | 897,856 |
| 平成29年 | 2,162,598 | 998,344 | 1,183,569 | 1,069,079 | 1,611,008 | 705,461 | 974,850 | 1,028,068 | 798,636 | 1,018,236 | 1,106,171 | 855,013 |
| 平成30年 | 2,125,068 | 1,075,926 | 1,120,418 | 940,594 | 938,982 | 708,386 | 929,559 | 1,183,276 | 799,266 | 1,177,187 | 1,093,982 | 961,372 |
| 令和元年 | 2,299,469 | 1,099,891 | 1,268,109 | 1,215,893 | 1,557,541 | 914,971 | 989,848 | 1,162,826 | 935,247 | 927,449 | 1,246,123 | 1,158,504 |



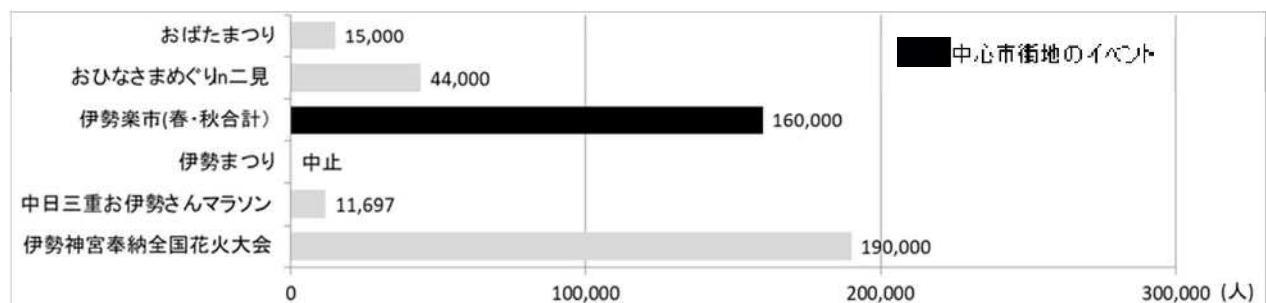
資料：三重県観光入込客数調査（各年）

※おかげ横丁は月別の報告がないため、本グラフには含まれていません。

②イベント別、施設別入込客数

◇イベント別入込客数

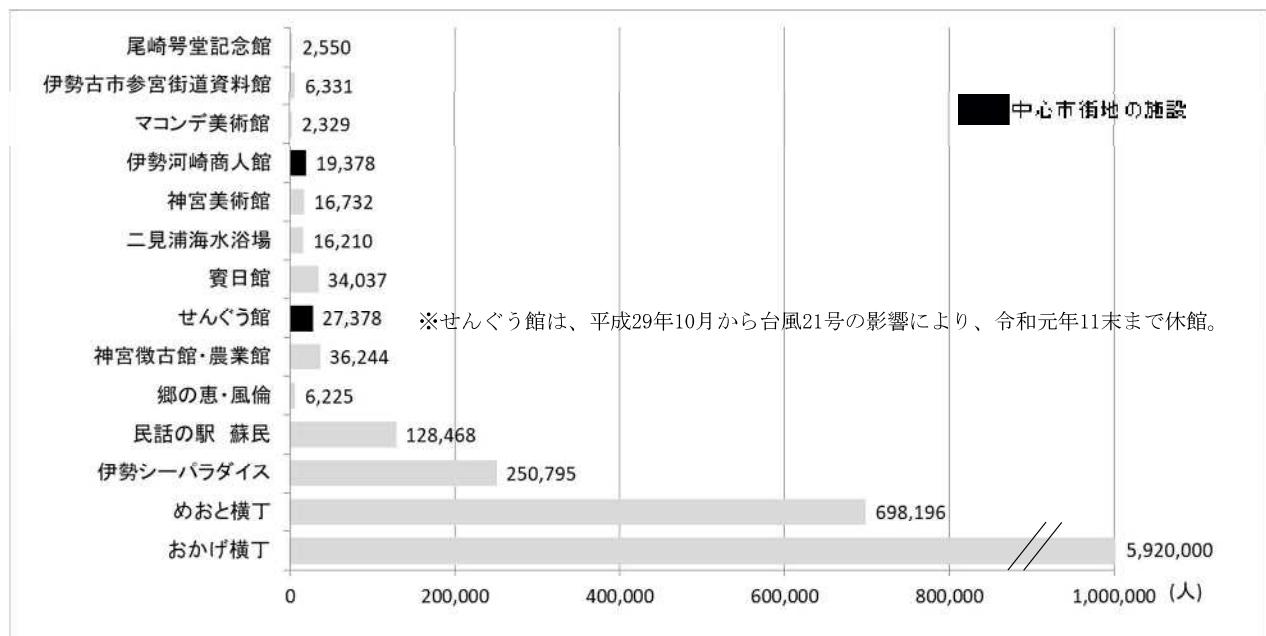
令和元年のイベント別年間入込客数は、伊勢神宮奉納全国花火大会が最も多く、約19万人が訪れており、公共交通機関を利用する観光客や、中心市街地内の宿泊施設に宿泊する多数の観光客が、花火大会の開催時間前後は回遊しにぎわいを創出している。次に、中心市街地内で行われている伊勢まつりは台風の影響で中止となったが、例年、2日間の平均で約14万人の来訪者が中心市街地を訪れる最大のイベントとなっている。



資料：伊勢市観光統計（令和元年）

◇施設別入込客数の状況

本市の施設別年間入込客数は、おかげ横丁が最も多く、令和元年も約 592 万人となった。中心市街地にある伊勢河崎商人館は約 2 万人、例年 20 万人が訪れていたせんぐう館は、台風被害により 11 月まで休館していたことから、約 3 万人であった。まだまだ、おかげ横丁を訪れている観光客を中心市街地内の施設へ誘導しきれていないのが現状である。



資料：伊勢市観光統計（令和元年）

③伊勢神宮参拝者数の推移

伊勢神宮（内宮・外宮）の参拝者数は、第 61 回式年遷宮以降減少し、第 62 回式年遷宮の祭儀がはじまる平成 17 年以降徐々に増加傾向となり、遷宮の儀が執り行われた平成 25 年は、両宮で過去最大となる参拝者数となった。その後減少するが、伊勢志摩サミットや令和への改元などにより年間約 900 万人を維持しており、観光基本計画で定められている令和元年度の神宮参拝者数は目標を達成したが、好調な結果をもたらした要因は、その大部分が改元に伴うものと考えられる。

次回の第 63 回式年遷宮は、令和 15 年に予定しており、令和 7 年から様々な行事が執り行われることから、徐々に観光客は増加していくと想定される。

伊勢市は、世界に誇れる歴史・文化などの資源を数多く有し、そこで暮らす市民の営みもあわせて、伊勢ならではの魅力として今も多くの人達をひきつけているが、伊勢市観光客実態調査の観光客総合満足度の項目では、毎回「移動・交通」の満足度が低く、特に今回は前年と比べると下げ幅が大きく、不満の理由として「駐車場が遠い/混んでいる/少ない」、「バスの本数が少ない/混んでいる」、「交通の便が悪い」などが課題となっている。

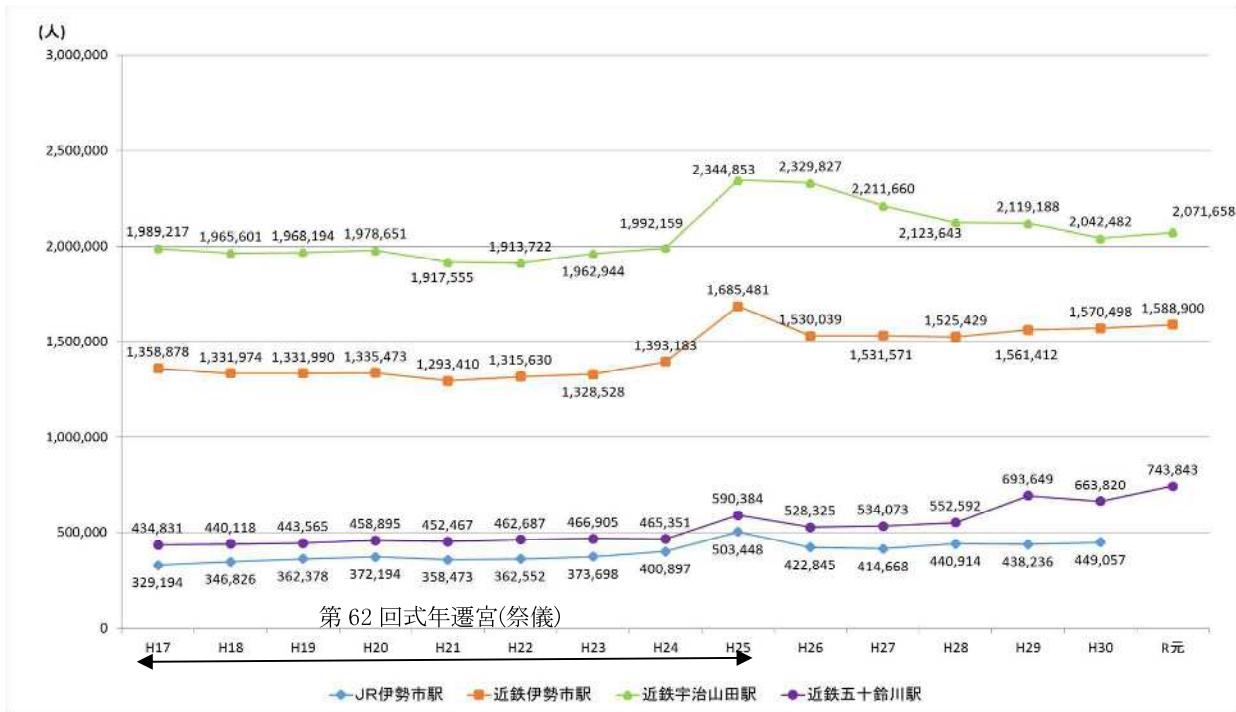


資料：伊勢市観光統計（各年）

(3) 鉄道・バスの利用状況

①伊勢市駅等乗客数の状況

平成 26 年以降、各駅とも大きな増減は無いが、五十鈴川駅の利用者数は徐々に増加しつつある。要因としては、県営サンアリーナにて平成 29 年に全国菓子大博覧会、R 元年には多数のコンサートが開催されたため、五十鈴川駅で降車し、バスを利用して県営サンアリーナへむかった利用者が多かったものと推察される。

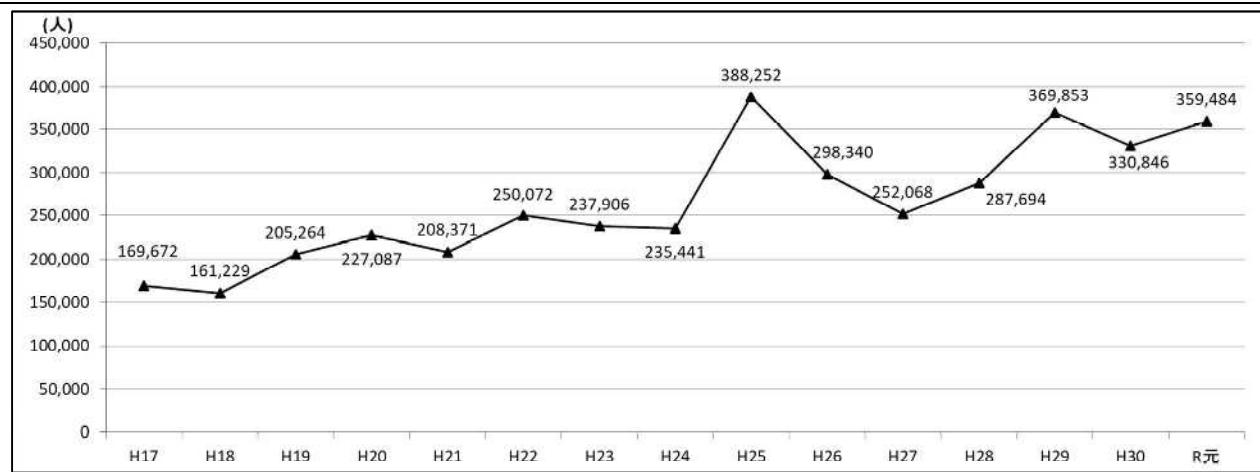


②バスの乗車人数の状況

◇CANばすの乗車人数の推移

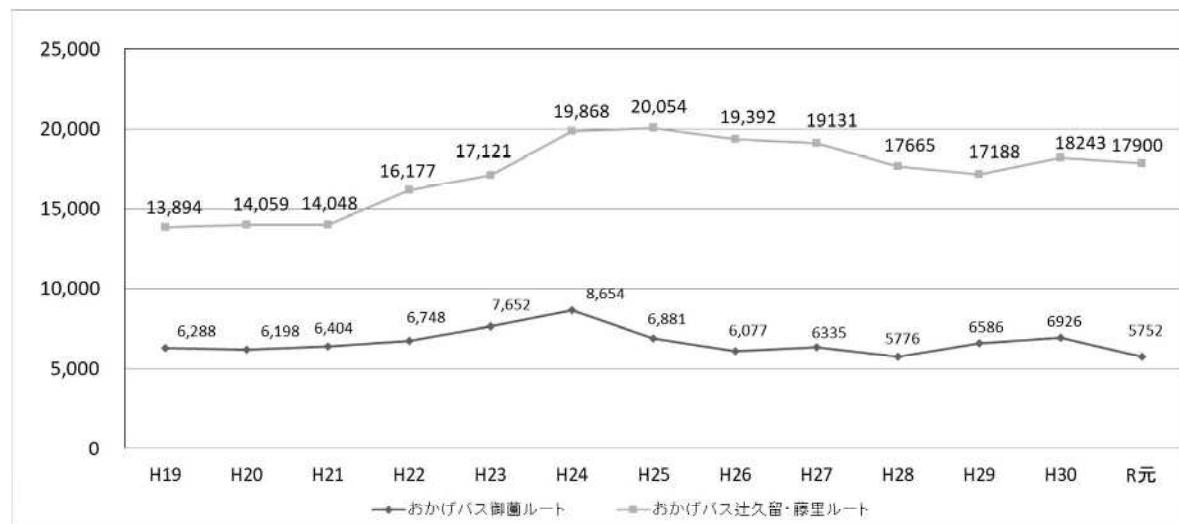
資料：伊勢市観光統計

地理に不慣れな観光客でも安心してバス移動できるよう、鉄道駅と観光地に停留所を絞って運行している、伊勢二見鳥羽周遊バス CAN ばすの乗車人数は、式年遷宮後に減少したが、平成 28 年以降増加傾向となっている。要因としては、県営サンアリーナにて平成 29 年に開催された全国菓子大博覧会や令和への改元などによる観光客の増加、公共交通の利用促進の P R の効果もあり、公共交通機関の利用客も増加していることから、CAN ばすの利用に繋がっていると考えられる。



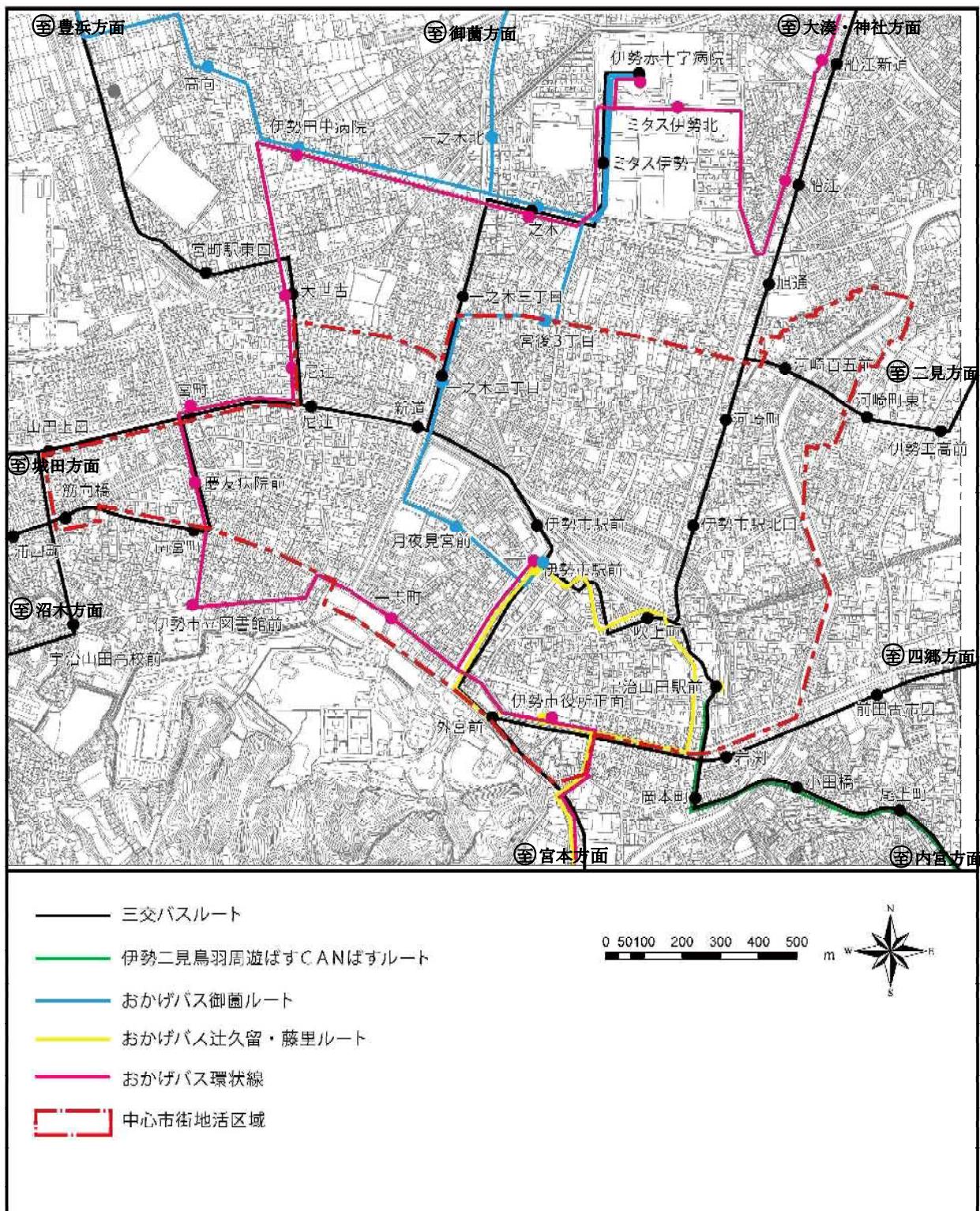
◇おかげバス乗車人数の推移

おかげバスは、公共交通の不便な地区を運行しており、平成24年までは増加していましたが、それ以降は停滞している。しかし、令和2年4月からは、市内の主要な施設（市役所、病院、大規模小売店舗など）を循環する、おかげバス環状線の本格運行が開始され、乗り継ぎを利用することで、市内の主要施設に行きやすくなり、バスの利便性は向上されると推察される。



資料：交通政策課

図一 中心市街地におけるバス路線図

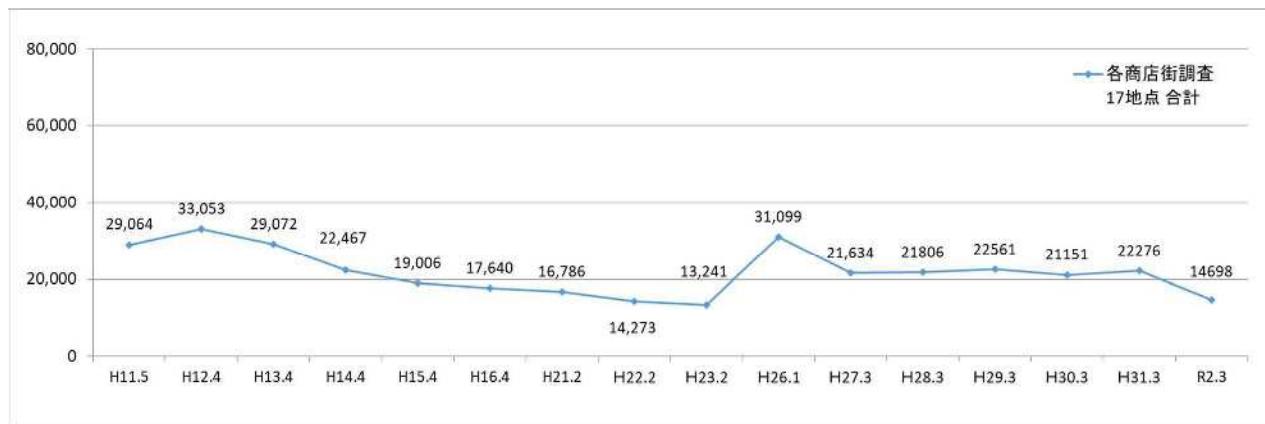
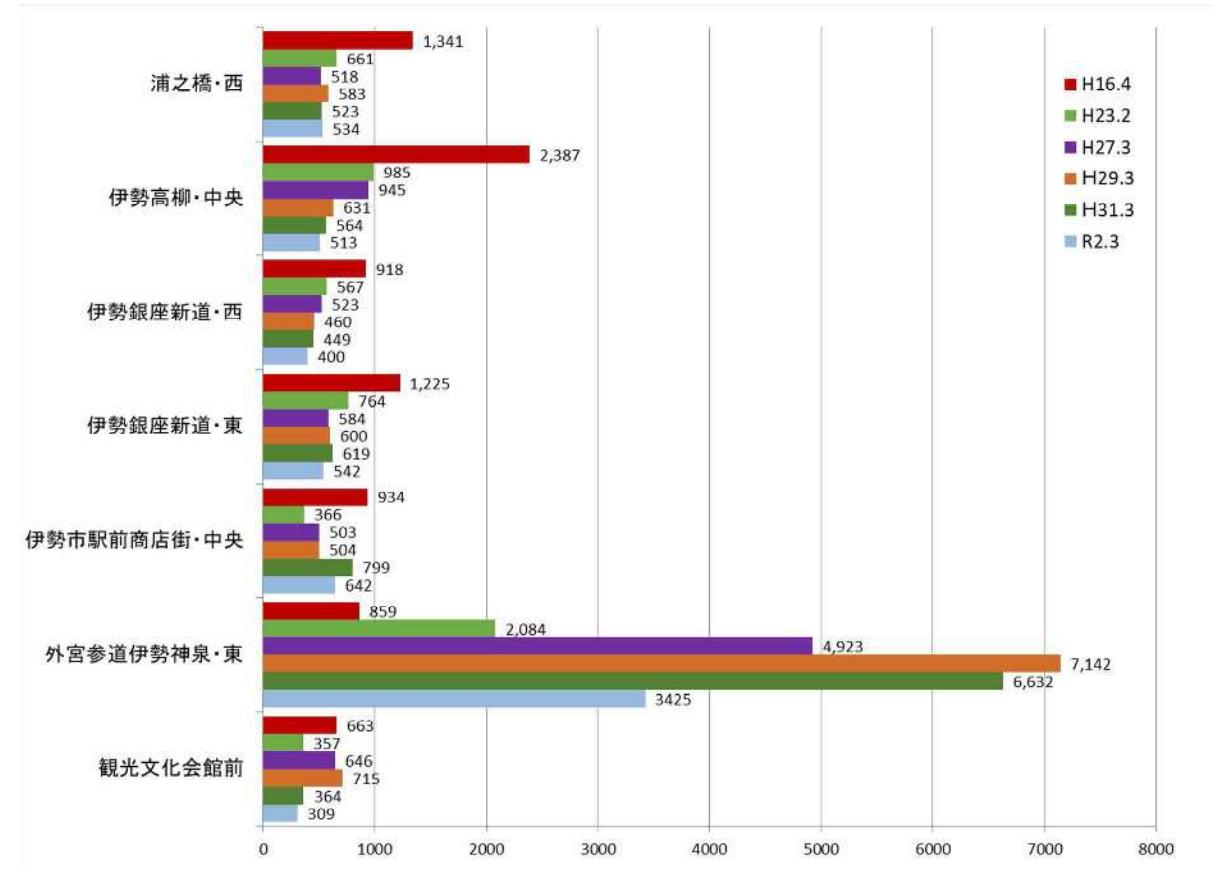


資料：交通政策課

(4) 歩行者通行量に関する状況

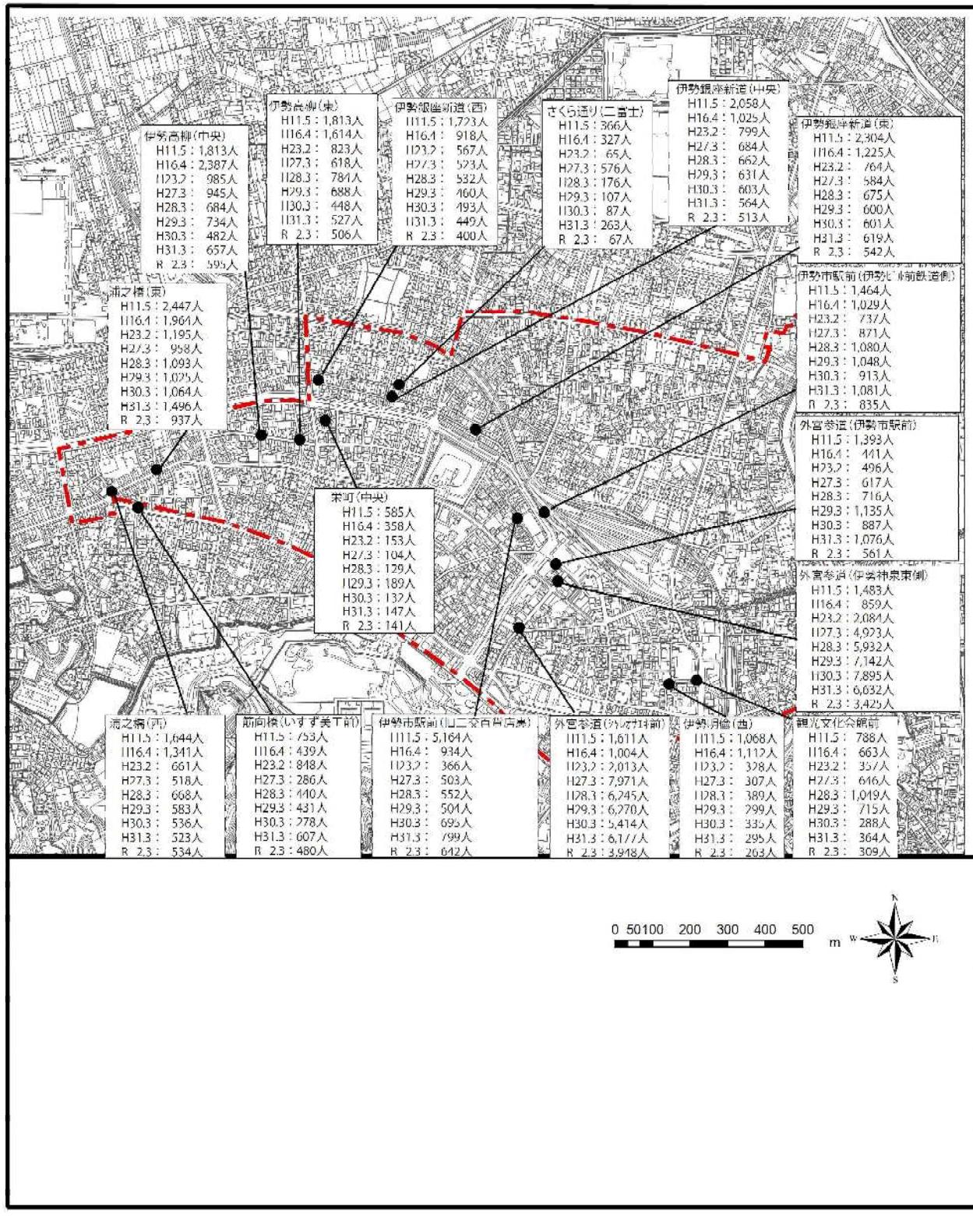
①中心市街地の主要な調査地点別歩行者数

中心市街地における歩行者通行量は、伊勢市駅周辺の調査地点では、平成 27 年より大幅に増加した地点や、増加傾向にある商店街もあるが、商店街の多くは、維持または減少傾向にある。なお、令和 2 年の調査は、社会的情勢により各商店街で前年より減少しており、特に観光客が多く通行する外宮参道では、約半分まで減少している。



資料：伊勢市商工労政課（各年）

図一通行量地点図と通行量



資料：伊勢市商工労政課

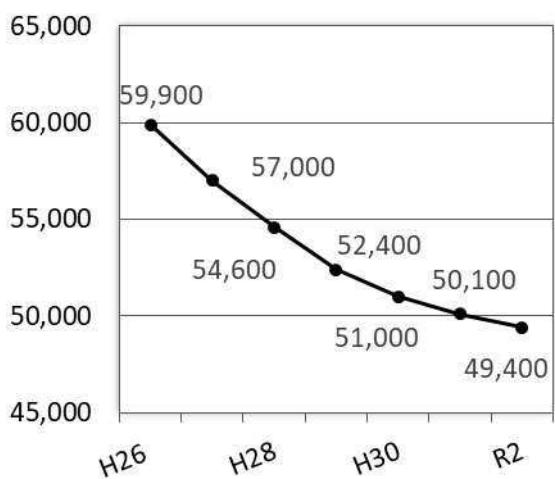
(5) 地価の状況

①地価公示価格および地価調査価格の推移

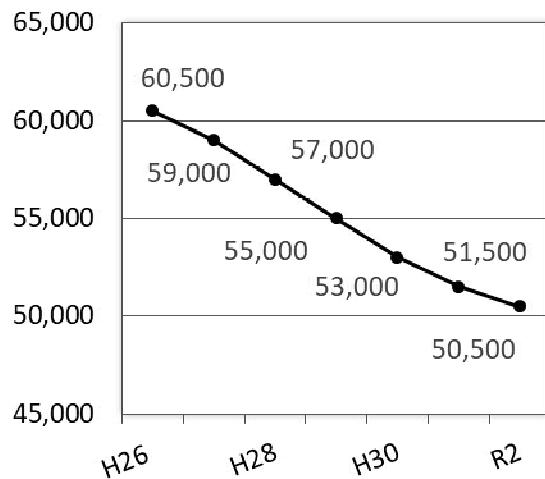
中心市街地内で式年遷宮以降にぎわいが創出されている外宮参道の地価公示は、近年、宿泊施設の建設や飲食業などの出店が相次いだことから、土地利用の動向として観光面での需要が高くなり、地価が上昇しているが、他の中心市街地だけでなく、市内の地価については内宮前を除き下降し続けている。

しかし、中心市街地においては、交通・生活の利便性が高く、都市機能が集積した地域であることから、まだまだ他の地域よりも高いため、居住人口が他の地域へ流出する一つの要因となっている。

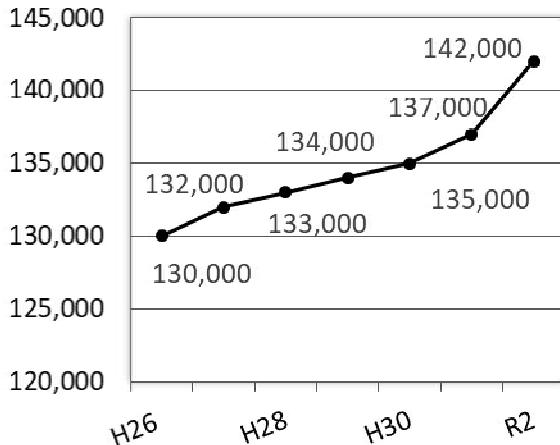
(円／m²) 伊勢市常磐1丁目1160番



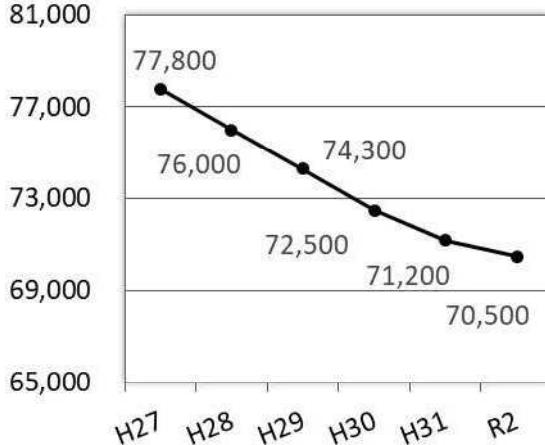
(円／m²) 伊勢市一之木2丁目2280番



(円／m²) 伊勢市本町426番2



(円／m²) 伊勢市岩渕1丁目712番

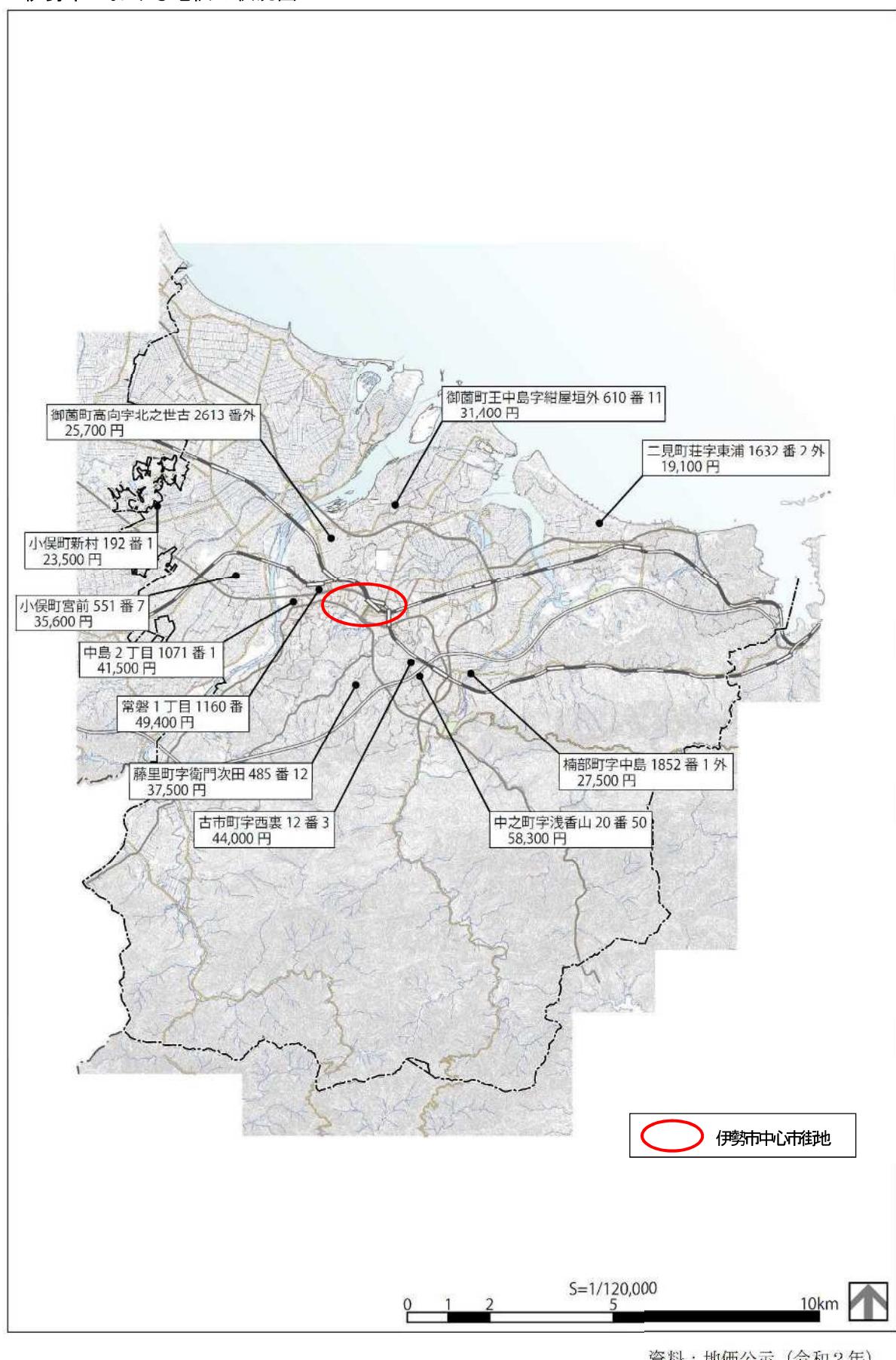


図一 中心市街地における地価の状況図



資料：地価公示（令和2年）、地下調査（令和元年）

図一伊勢市における地価の状況図

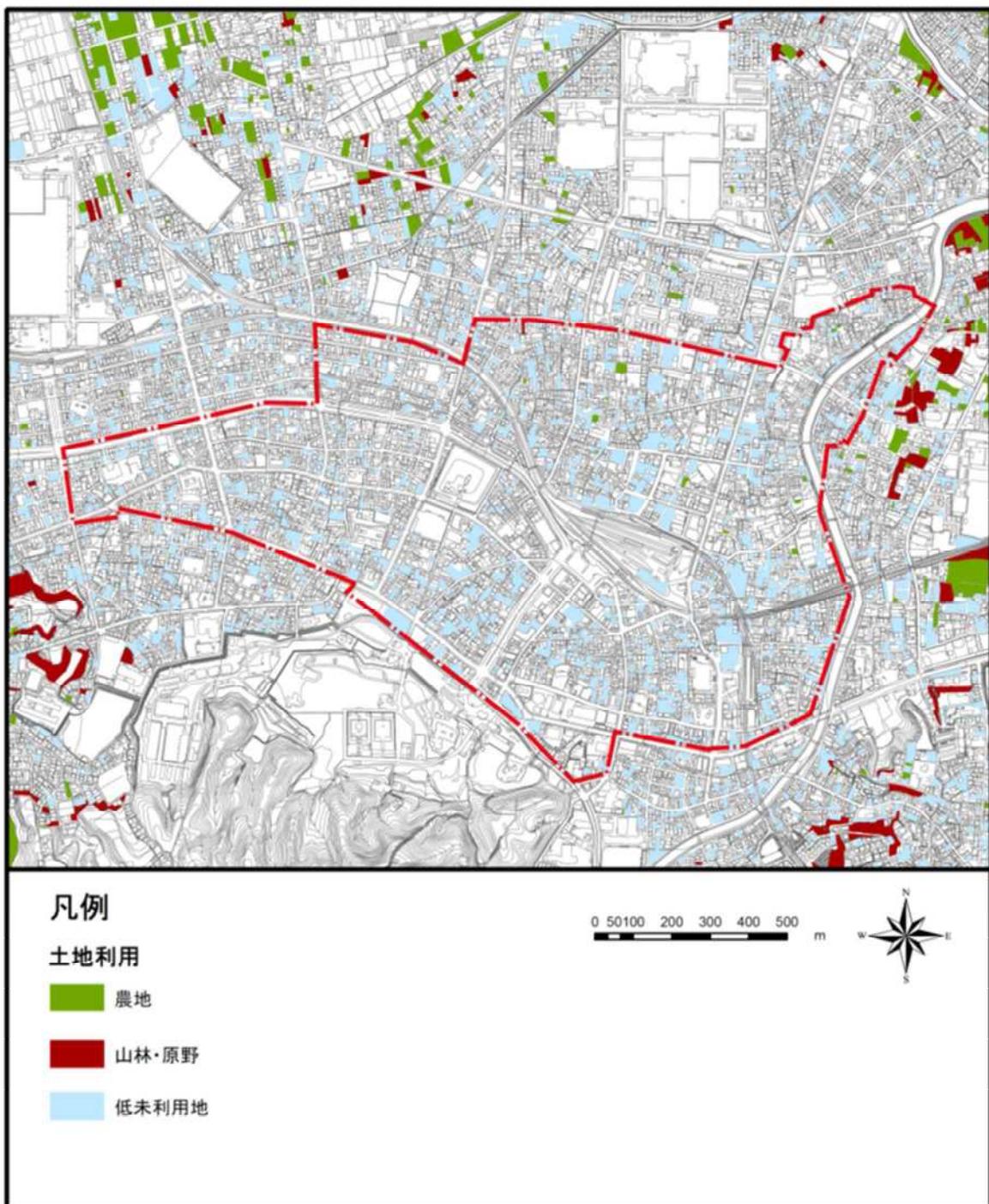


資料：地価公示（令和2年）

(6) 未利用地の状況

中心市街地の未利用地状況は、現況宅地で未利用地などの遊休土地が散見され、比較的大きな規模もあれば小規模単位がまとまって集中しているところもみられる。伊勢市駅より北側では、あまり店舗が見られずほぼ住宅地や駐車場となっている。伊勢市駅より南側は、宿泊施設の整備や商店街での出店により部分的に土地利用が進んでいる。全体として、敷地の狭さと道路の問題で利用されず空き地になっている所が多いと推察される。

図一 伊勢市における未利用地状況図

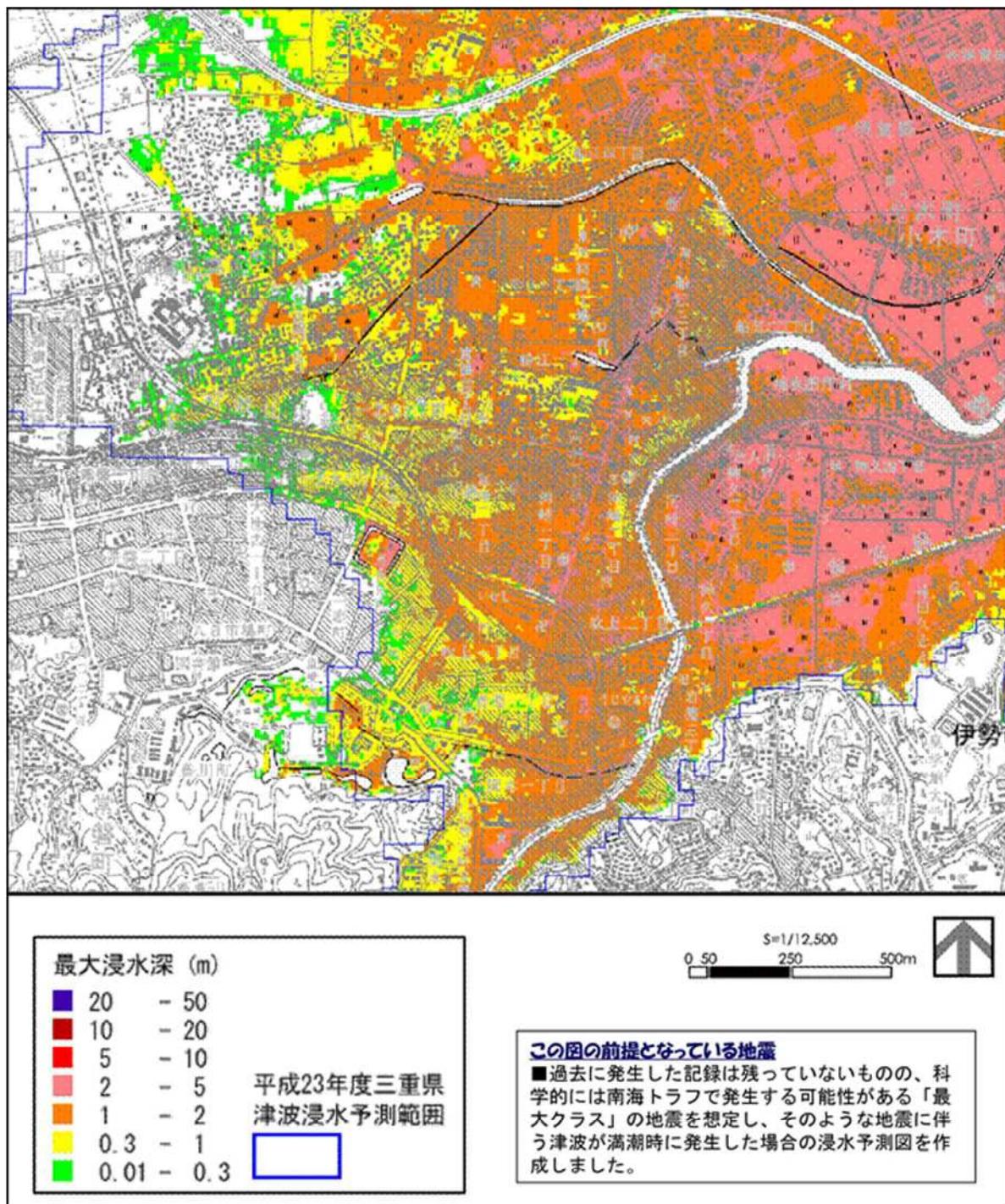


資料：都市計画基礎調査（平成30年）

(8) 津波浸水予測状況

中心市街地における津波による浸水予測の状況は、市役所や商店街の周辺では0.3m～1.0m、伊勢市駅や宇治山田駅やその周縁部は1.0m～2.0m、河崎では2.0m～5.0mの区域もみられ、津波避難への対応が必要な状況となっている。なお、三重県の地震被害想定調査結果によると、南海トラフ地震（理論上最大）の伊勢市の想定震度は7で、全壊・焼失棟数の最大値は約41,000戸となっている。

図一 中心市街地における津波浸水予想図



資料:三重県 津波浸水予想図(平成25年度版)

[3] 地域住民のニーズ等の把握・分析

(1) 伊勢市の市民アンケート（令和元年度）

□調査目的

市民の皆様の意識や日常生活における活動等を把握し、今後の市政に反映させていくための基礎資料とすること。あわせて、市民の皆様にも業務や学習等に幅広くご活用いただくこととしているが、その中で、伊勢市中心市街地活性化基本計画に基づく取り組みについて、市民意識の変化や市民ニーズ、また中心市街地への定性的評価の把握を目的とする。

□調査の実施概要

| | |
|------|------------------------------|
| 調査対象 | 伊勢市内在住の16歳以上の市民3,500人（無作為抽出） |
| 調査方法 | 郵送による送付回収 |
| 回答票数 | 1,566人（回答率：44.7%） |
| 実施期間 | 令和元年9月4日～令和元年9月30日 |

(2) 伊勢市の中心市街地に関する市民アンケート結果

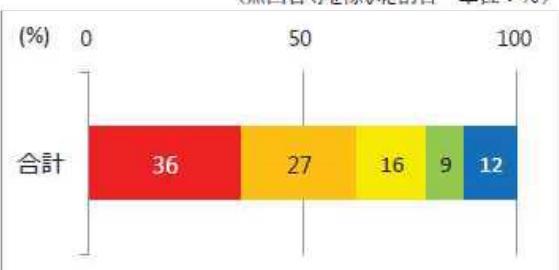
中心市街地にどの程度出かけますか。

中心市街地にお住まいの方は、区域のどこかに出かける場合を想定してお答えください。（1つに○）

- 1. 週に1回以上
- 2. 月に数回程度
- 3. 月に1回程度
- 4. 半年に1回程度
- 5. ほとんど又は全く行かない

○単純集計

（無回答等を除いた割合 単位：%）



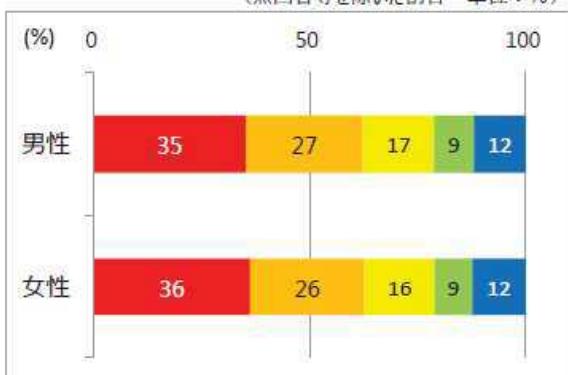
「1. 週に1回以上」「2. 月に数回程度」の割合は、63%となっています。

（単位：人）

| 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 無回答 | 合計 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 回答者数 | 543 | 409 | 247 | 136 | 185 | 46 | 1,566 |

○男女別集計

(無回答等を除いた割合 単位：%)



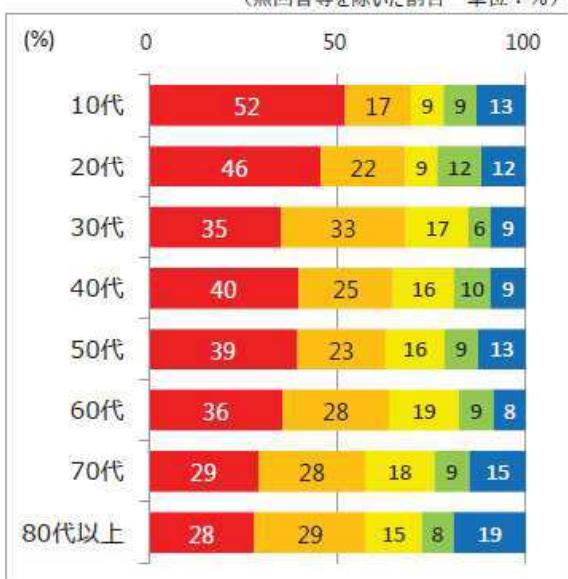
男女の差はほとんどありません。

(単位：人)

| 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 無回答 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 男性 | 234 | 181 | 110 | 61 | 80 | 16 | 682 |
| 女性 | 303 | 222 | 136 | 73 | 104 | 27 | 865 |
| 無回答 | 6 | 6 | 1 | 2 | 1 | 3 | 19 |
| 合計 | 543 | 409 | 247 | 136 | 185 | 46 | 1,566 |

○年代別集計

(無回答等を除いた割合 単位：%)



10代で「1.週に1回以上」の割合が半数を超えて
います。

高齢の世代ほど、出かける回数が少なくなる傾向が
あります。

(単位：人)

| 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 無回答 | 合計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 10代 | 24 | 8 | 4 | 4 | 6 | 0 | 46 |
| 20代 | 43 | 21 | 8 | 11 | 11 | 2 | 96 |
| 30代 | 53 | 50 | 25 | 9 | 14 | 0 | 151 |
| 40代 | 86 | 54 | 35 | 21 | 20 | 2 | 218 |
| 50代 | 88 | 52 | 35 | 20 | 28 | 2 | 225 |
| 60代 | 105 | 83 | 55 | 27 | 25 | 7 | 302 |
| 70代 | 94 | 91 | 59 | 30 | 48 | 17 | 339 |
| 80代以上 | 47 | 49 | 25 | 14 | 32 | 13 | 180 |
| 無回答 | 3 | 1 | 1 | 0 | 1 | 3 | 9 |
| 合計 | 543 | 409 | 247 | 136 | 185 | 46 | 1,566 |

中心市街地を訪れる回数は、男女の差はほとんどないが、年代別集計をみると、10代、20代と若い世代が中心市街地へ出かけている。10代については、多くの学生が通学の過程で中心市街地を訪れるものと考えられる。

○小学校区別集計

早修、上野、有緝、明倫で「1.週に1回以上」の割合が半数を超えていきます。

大湊、小俣、御園で「5.ほとんど又は全く行かない」の割合が高くなっています。

(無回答等を除いた割合 単位：%)



(単位：人)

| 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 無回答 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 進修 | 10 | 14 | 4 | 1 | 6 | 2 | 37 |
| 修道 | 32 | 25 | 13 | 6 | 11 | 4 | 91 |
| 有緝 | 78 | 39 | 21 | 4 | 9 | 3 | 154 |
| 早修 | 29 | 8 | 8 | 1 | 5 | 1 | 52 |
| 中島 | 37 | 27 | 12 | 6 | 10 | 1 | 93 |
| 明倫 | 49 | 25 | 13 | 3 | 7 | 1 | 98 |
| 厚生 | 39 | 21 | 8 | 2 | 8 | 6 | 84 |
| 神社 | 15 | 22 | 14 | 13 | 5 | 4 | 73 |
| 大湊 | 10 | 9 | 3 | 5 | 11 | 0 | 38 |
| 佐八 | 8 | 6 | 3 | 3 | 3 | 0 | 23 |
| 宮山 | 25 | 15 | 6 | 6 | 6 | 1 | 59 |
| 浜郷 | 28 | 19 | 21 | 5 | 5 | 1 | 79 |
| 四郷 | 15 | 21 | 13 | 6 | 8 | 0 | 63 |
| 豊浜東 | 10 | 7 | 4 | 2 | 2 | 1 | 26 |
| 豊浜西 | 9 | 8 | 7 | 2 | 2 | 0 | 28 |
| 北浜 | 6 | 11 | 10 | 6 | 6 | 2 | 41 |
| 東大淀 | 4 | 4 | 4 | 4 | 2 | 1 | 19 |
| 城田 | 19 | 21 | 8 | 5 | 8 | 1 | 62 |
| 上野 | 8 | 3 | 0 | 3 | 0 | 1 | 15 |
| 二見浦 | 34 | 22 | 16 | 10 | 8 | 3 | 93 |
| 小俣 | 22 | 34 | 28 | 17 | 30 | 4 | 135 |
| 明野 | 21 | 21 | 17 | 14 | 10 | 0 | 83 |
| 御園 | 30 | 25 | 13 | 10 | 20 | 5 | 103 |
| 無回答 | 5 | 2 | 1 | 2 | 3 | 4 | 17 |
| 合計 | 543 | 409 | 247 | 136 | 185 | 46 | 1,566 |

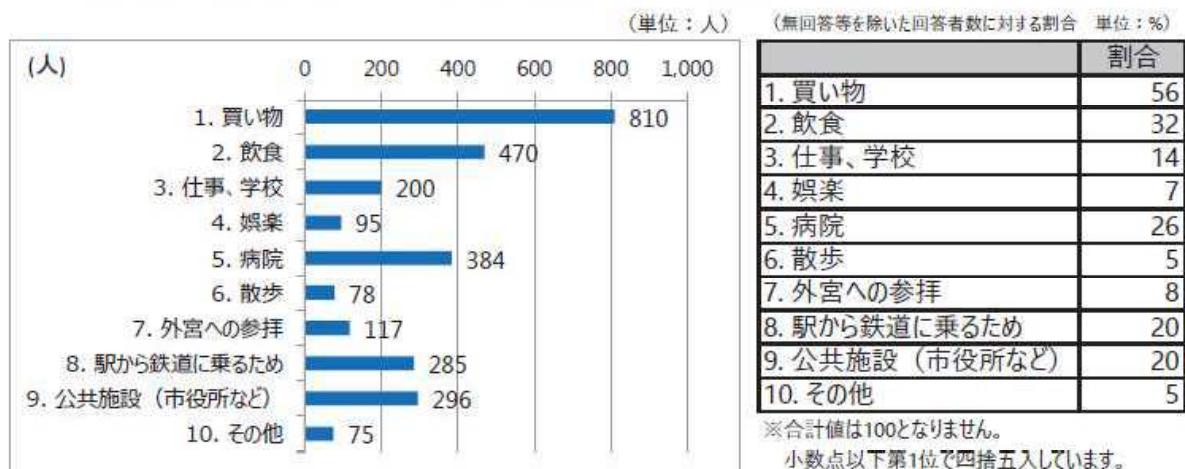
中心市街地内にある、有緝、早修、明倫、厚生学区に住んでいる市民の中心市街地へ出かける頻度が高くなっている。区域から離れるほど、また大規模小売店舗が隣接する学区ほど中心市街地へ来訪する頻度が低くなっている傾向である。

中心市街地に出かける目的は、主に何ですか。（3つまでに○）

- | | | | |
|----------------|-------------|-----------|---------------|
| 1. 買い物 | 2. 飲食 | 3. 仕事、学校 | 4. 娯楽 |
| 5. 病院 | 6. 散歩 | 7. 外宮への参拝 | 8. 駅から鉄道に乗るため |
| 9. 公共施設（市役所など） | 10. その他（　　） | | |

○単純集計

「1. 買い物」と回答された方が56%となっています。次いで「2. 飲食」「5. 病院」が多くなっています。



○男女別集計

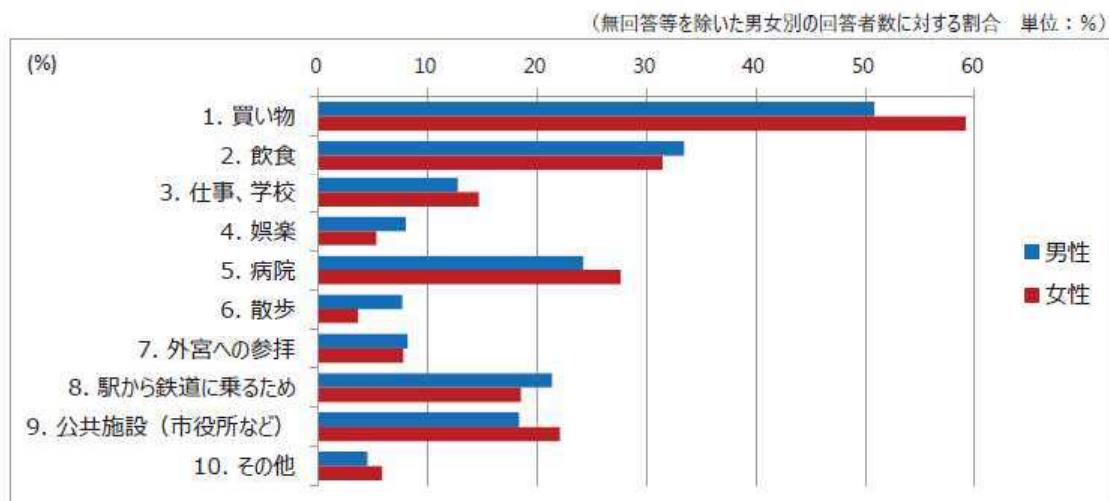
男性の方が「6. 散歩」の割合がやや高くなっています。

女性の方が「1. 買い物」の割合がやや高くなっています。

(単位：人) (無回答等を除いた男女別の回答者数に対する割合 単位：%)

| 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 無回答 | 回答者数 |
|-----|-----|-----|-----|----|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|-------|
| 男性 | 319 | 210 | 80 | 50 | 152 | 48 | 51 | 134 | 115 | 28 | 54 | 682 |
| 女性 | 480 | 255 | 119 | 43 | 224 | 29 | 63 | 150 | 179 | 47 | 54 | 865 |
| 無回答 | 11 | 5 | 1 | 2 | 8 | 1 | 3 | 1 | 2 | 0 | 3 | 19 |
| 合計 | 810 | 470 | 200 | 95 | 384 | 78 | 117 | 285 | 296 | 75 | 111 | 1,566 |

| 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|----|------|------|------|-----|------|-----|-----|------|------|-----|
| 男性 | 50.8 | 33.4 | 12.7 | 8.0 | 24.2 | 7.6 | 8.1 | 21.3 | 18.3 | 4.5 |
| 女性 | 59.2 | 31.4 | 14.7 | 5.3 | 27.6 | 3.6 | 7.8 | 18.5 | 22.1 | 5.8 |



○年代別集計

「1. 買い物」に次いで、20代～60代では「2. 飲食」の割合が高く、70代以上では「5. 病院」の割合が高くなっています。

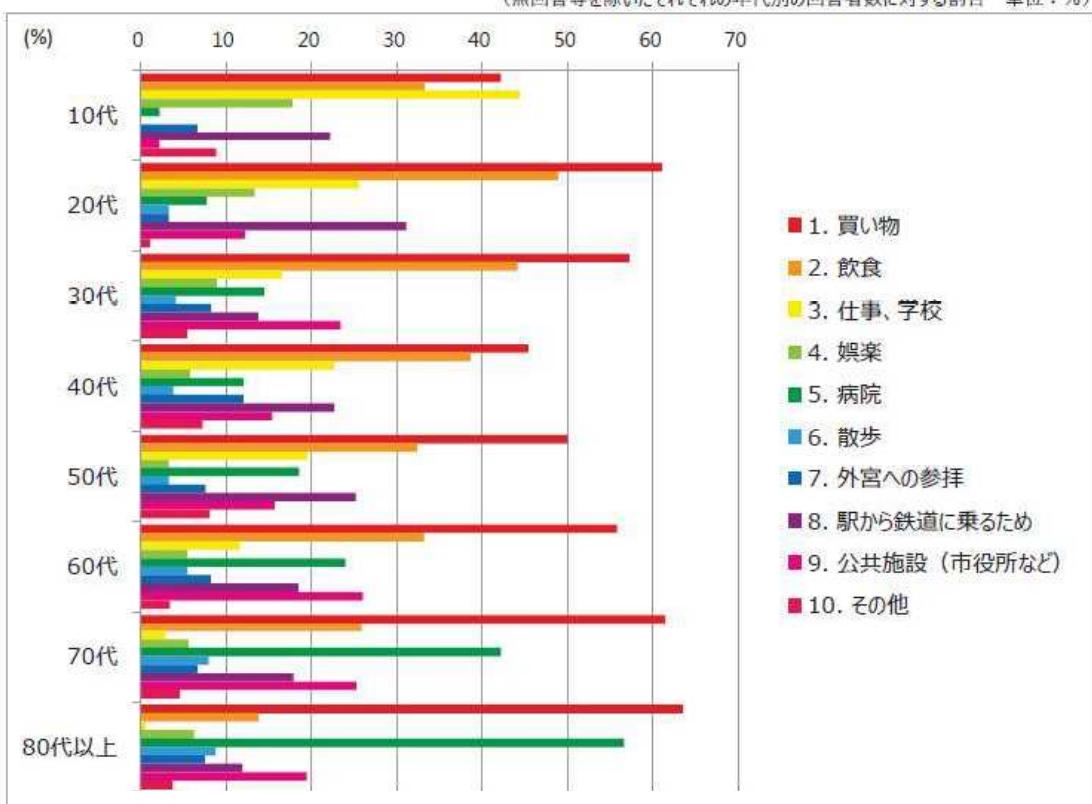
(単位：人)

| 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 無回答 | 回答者数 |
|-------|-----|-----|-----|----|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|-------|
| 10代 | 19 | 15 | 20 | 8 | 1 | 0 | 3 | 10 | 1 | 4 | 1 | 46 |
| 20代 | 55 | 44 | 23 | 12 | 7 | 3 | 3 | 28 | 11 | 1 | 6 | 96 |
| 30代 | 83 | 64 | 24 | 13 | 21 | 6 | 12 | 20 | 34 | 8 | 6 | 151 |
| 40代 | 94 | 80 | 47 | 12 | 25 | 8 | 25 | 47 | 32 | 15 | 11 | 218 |
| 50代 | 105 | 68 | 41 | 7 | 39 | 7 | 16 | 53 | 33 | 17 | 15 | 225 |
| 60代 | 163 | 97 | 34 | 16 | 70 | 16 | 24 | 54 | 76 | 10 | 10 | 302 |
| 70代 | 185 | 78 | 9 | 17 | 127 | 24 | 20 | 54 | 76 | 14 | 38 | 339 |
| 80代以上 | 101 | 22 | 1 | 10 | 90 | 14 | 12 | 19 | 31 | 6 | 21 | 180 |
| 無回答 | 5 | 2 | 1 | 0 | 4 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 3 | 9 |
| 合計 | 810 | 470 | 200 | 95 | 384 | 78 | 117 | 285 | 296 | 75 | 111 | 1,566 |

(無回答等を除いたそれぞれの年代別の回答者数に対する割合 単位：%)

| 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|-------|------|------|------|------|------|-----|------|------|------|-----|
| 10代 | 42.2 | 33.3 | 44.4 | 17.8 | 2.2 | 0.0 | 6.7 | 22.2 | 2.2 | 8.9 |
| 20代 | 61.1 | 48.9 | 25.6 | 13.3 | 7.8 | 3.3 | 3.3 | 31.1 | 12.2 | 1.1 |
| 30代 | 57.2 | 44.1 | 16.6 | 9.0 | 14.5 | 4.1 | 8.3 | 13.8 | 23.4 | 5.5 |
| 40代 | 45.4 | 38.6 | 22.7 | 5.8 | 12.1 | 3.9 | 12.1 | 22.7 | 15.5 | 7.2 |
| 50代 | 50.0 | 32.4 | 19.5 | 3.3 | 18.6 | 3.3 | 7.6 | 25.2 | 15.7 | 8.1 |
| 60代 | 55.8 | 33.2 | 11.6 | 5.5 | 24.0 | 5.5 | 8.2 | 18.5 | 26.0 | 3.4 |
| 70代 | 61.5 | 25.9 | 3.0 | 5.6 | 42.2 | 8.0 | 6.6 | 17.9 | 25.2 | 4.7 |
| 80代以上 | 63.5 | 13.8 | 0.6 | 6.3 | 56.6 | 8.8 | 7.5 | 11.9 | 19.5 | 3.8 |

(無回答等を除いたそれぞれの年代別の回答者数に対する割合 単位：%)



すべての年齢層で、中心市街地へ出かける目的は買い物が多く、市民の生活活動を支えている区域である。また、20代、30代は、飲食を目的としている割合がかなり高く、70代、80代は病院への通院が多いことから、都市機能が集積していることが伺える。

中心市街地に住みたいと思いますか。中心市街地にお住まいの方は、区域内に新たに住む場合を想定してお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 思う（一軒家の新築が良い）
3. 思う（マンションが良い）

2. 思う（一軒家の中古でも良い）
4. 思わない

○単純集計

「4. 思わない」と回答された方が64%となっています。

住みたいと思う回答の中では、「1. 思う（一軒家の新築が良い）」が多くなっています。



○年代別集計

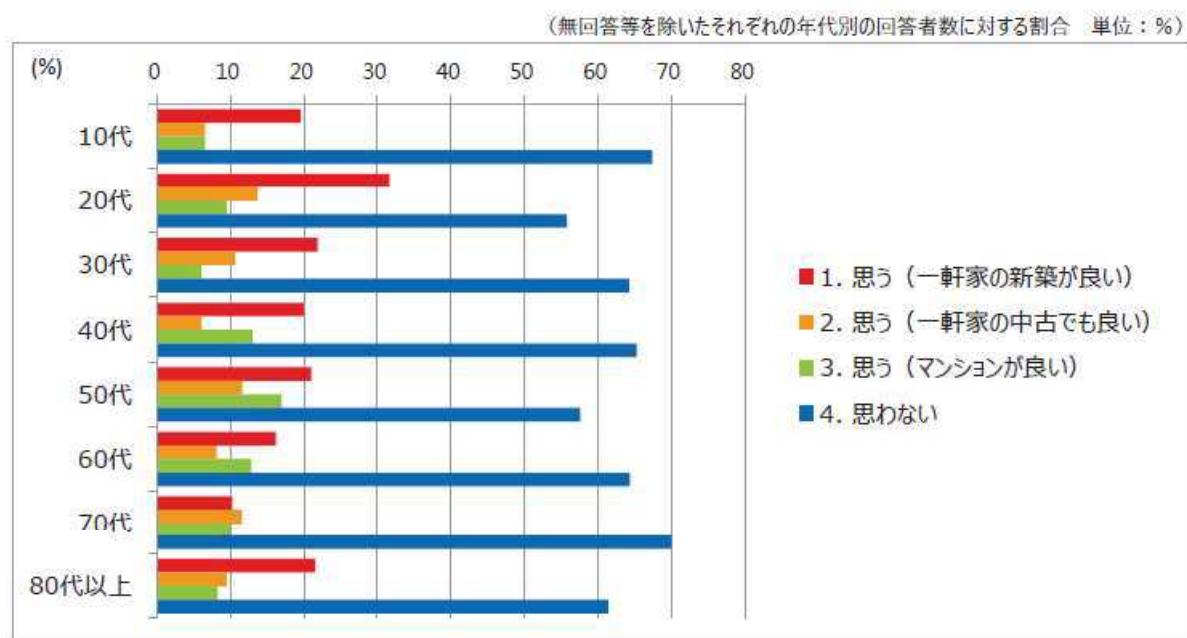
20代で「1. 思う（一軒家の新築が良い）」の割合が高くなっています。

(単位：人)

| 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 | 無回答 | 回答者数 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 10代 | 9 | 3 | 3 | 31 | 0 | 46 |
| 20代 | 30 | 13 | 9 | 53 | 1 | 96 |
| 30代 | 33 | 16 | 9 | 97 | 0 | 151 |
| 40代 | 43 | 13 | 28 | 141 | 2 | 218 |
| 50代 | 47 | 26 | 38 | 129 | 1 | 225 |
| 60代 | 48 | 24 | 38 | 191 | 5 | 302 |
| 70代 | 32 | 36 | 31 | 219 | 26 | 339 |
| 80代以上 | 34 | 15 | 13 | 97 | 22 | 180 |
| 無回答 | 2 | 0 | 0 | 4 | 3 | 9 |
| 合計 | 278 | 146 | 169 | 962 | 60 | 1,566 |

(無回答等を除いたそれぞれの年代別の回答者数に対する割合 単位：%)

| 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 |
|-------|------|------|------|------|
| 10代 | 19.6 | 6.5 | 6.5 | 67.4 |
| 20代 | 31.6 | 13.7 | 9.5 | 55.8 |
| 30代 | 21.9 | 10.6 | 6.0 | 64.2 |
| 40代 | 19.9 | 6.0 | 13.0 | 65.3 |
| 50代 | 21.0 | 11.6 | 17.0 | 57.6 |
| 60代 | 16.2 | 8.1 | 12.8 | 64.3 |
| 70代 | 10.2 | 11.5 | 9.9 | 70.0 |
| 80代以上 | 21.5 | 9.5 | 8.2 | 61.4 |



20代など若い世代で、中心市街地内に一軒家の新築を望む割合が多く、50代になるとマンションが良いと答える割合が他の年代に比べて高くなっている。しかし、全体的な傾向として、中心市街地内に住みたいと思わないという回答をしている人が多いことから、中心市街地周辺で市街化が進行していることに繋がっていると考える。

また、中古の一軒家でも良いという回答も1割程度あることから、中心市街地の空家の解消に繋げられる可能性がある。

(3) その他 市民アンケート結果

①暮らしやすさについて

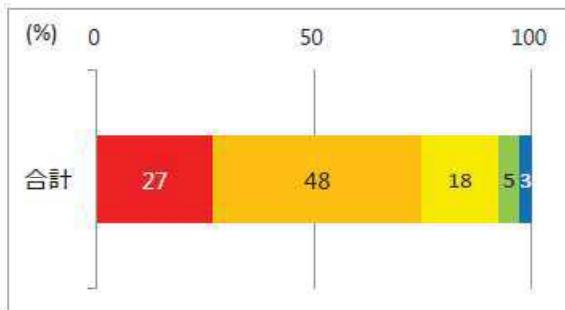
市民の年代を問わず、伊勢市は暮らしやすいと感じていただいていることから、特に、中心市街地に位置する学区で高い結果が出ていることから、都市機能が集積していることで利便性などを感じていると推測される。また、伊勢市に愛着・魅力を感じている市民、このまま永住したいという方も多く、子育てがしやすいという意見も多いことから、定住・移住等の促進に繋げるPR材料になると考えられる。

あなたにとって、今の伊勢市は暮らしやすいですか。（1つに○）

- | | | |
|--------------------|--------------------|---------------|
| ■ 1.暮らしやすい | ■ 2.どちらかといえば暮らしやすい | ■ 3.どちらともいえない |
| ■ 4.どちらかといえば暮らしにくい | ■ 5.暮らしにくい | |

○単純集計

（無回答等を除いた割合 単位：%）



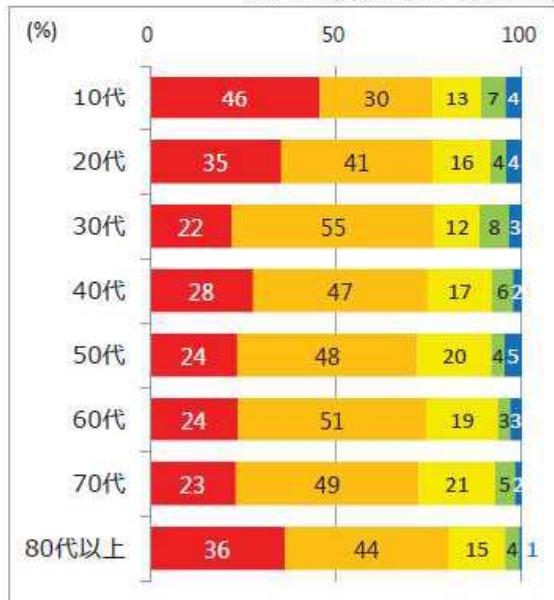
「2.どちらかといえば暮らしやすい」の割合が高く、「1.暮らしやすい」と合わせると75%となっています。

（単位：人）

| 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 無回答 | 合計 |
|------|-----|-----|-----|----|----|-----|-------|
| 回答者数 | 405 | 722 | 269 | 72 | 43 | 55 | 1,566 |

○年代別集計

（無回答等を除いた割合 単位：%）



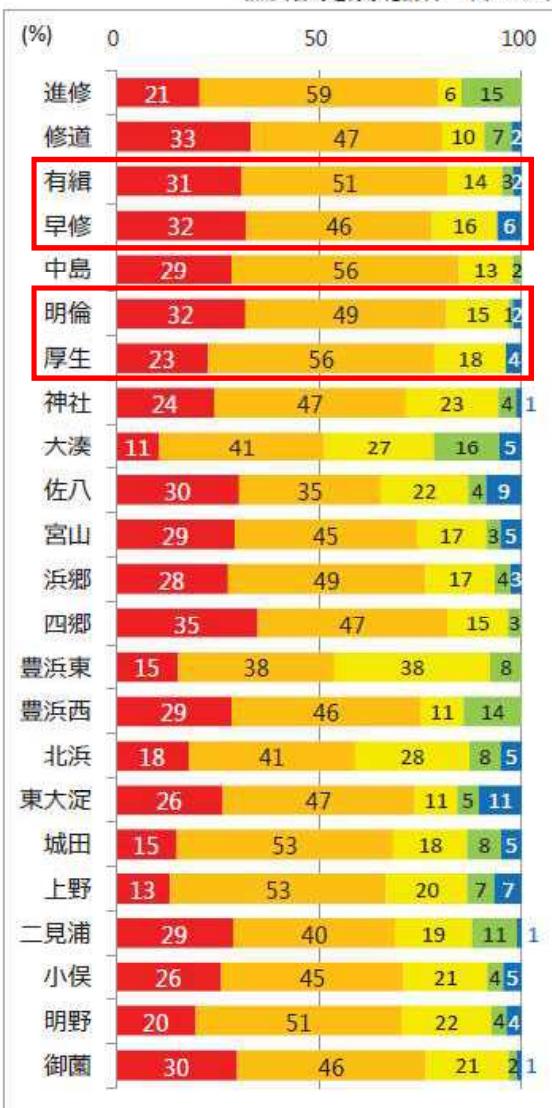
20代以下、80代以上で「1.暮らしやすい」の割合が高くなっています。

（単位：人）

| 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 無回答 | 合計 |
|-------|-----|-----|-----|----|----|-----|-------|
| 10代 | 21 | 14 | 6 | 3 | 2 | 0 | 46 |
| 20代 | 34 | 39 | 15 | 4 | 4 | 0 | 96 |
| 30代 | 33 | 82 | 18 | 12 | 5 | 1 | 151 |
| 40代 | 59 | 100 | 37 | 12 | 5 | 5 | 218 |
| 50代 | 52 | 107 | 44 | 8 | 10 | 4 | 225 |
| 60代 | 70 | 150 | 57 | 10 | 9 | 6 | 302 |
| 70代 | 75 | 160 | 67 | 17 | 6 | 14 | 339 |
| 80代以上 | 57 | 69 | 24 | 6 | 1 | 23 | 180 |
| 無回答 | 4 | 1 | 1 | 0 | 1 | 2 | 9 |
| 合計 | 405 | 722 | 269 | 72 | 43 | 55 | 1,566 |

○小学校区別集計

(無回答等を除いた割合 単位：%)



四郷、修道、早修、明倫、有緝で「1.暮らしやすい」の割合が高くなっています。

(単位：人)

| 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 無回答 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|-------|
| 進修 | 7 | 20 | 2 | 5 | 0 | 3 | 37 |
| 修道 | 29 | 41 | 9 | 6 | 2 | 4 | 91 |
| 有緝 | 46 | 75 | 20 | 4 | 3 | 6 | 154 |
| 早修 | 16 | 23 | 8 | 0 | 3 | 2 | 52 |
| 中島 | 26 | 51 | 12 | 2 | 0 | 2 | 93 |
| 明倫 | 31 | 48 | 15 | 1 | 2 | 1 | 98 |
| 厚生 | 18 | 44 | 14 | 0 | 3 | 5 | 84 |
| 神社 | 17 | 33 | 16 | 3 | 1 | 3 | 73 |
| 大湊 | 4 | 15 | 10 | 6 | 2 | 1 | 38 |
| 佐八 | 7 | 8 | 5 | 1 | 2 | 0 | 23 |
| 宮山 | 17 | 26 | 10 | 2 | 3 | 1 | 59 |
| 浜郷 | 21 | 37 | 13 | 3 | 2 | 3 | 79 |
| 四郷 | 21 | 28 | 9 | 2 | 0 | 3 | 63 |
| 豊浜東 | 4 | 10 | 10 | 2 | 0 | 0 | 26 |
| 豊浜西 | 8 | 13 | 3 | 4 | 0 | 0 | 28 |
| 北浜 | 7 | 16 | 11 | 3 | 2 | 2 | 41 |
| 東大淀 | 5 | 9 | 2 | 1 | 2 | 0 | 19 |
| 城田 | 9 | 32 | 11 | 5 | 3 | 2 | 62 |
| 上野 | 2 | 8 | 3 | 1 | 1 | 0 | 15 |
| 二見浦 | 26 | 36 | 17 | 10 | 1 | 3 | 93 |
| 小俣 | 34 | 59 | 27 | 5 | 6 | 4 | 135 |
| 明野 | 16 | 41 | 18 | 3 | 3 | 2 | 83 |
| 御園 | 29 | 45 | 20 | 2 | 1 | 6 | 103 |
| 無回答 | 5 | 4 | 4 | 1 | 1 | 2 | 17 |
| 合計 | 405 | 722 | 269 | 72 | 43 | 55 | 1,566 |

伊勢市に「自分のまち」としての愛着、魅力を感じていますか。(1つに○)

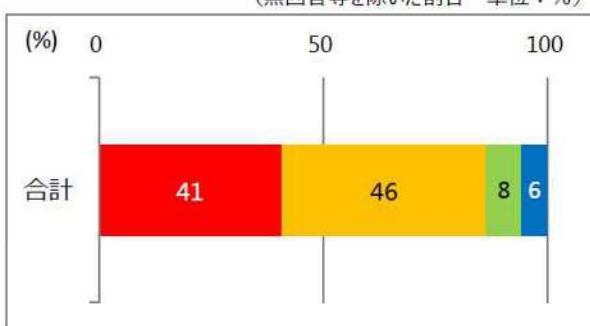
■ 1. 感じている ■ 2. どちらかといえば感じている

■ 3. どちらかといえば感じていない ■ 4. 感じていない

□ 5. わからない

○単純集計

(無回答等を除いた割合 単位：%)



「2.どちらかといえば感じている」の割合がやや高く、「1.感じている」と合わせると80%を超えてます。

(単位：人)

| 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 | 無回答等 | 合計 |
|------|-----|-----|-----|----|------|-------|
| 回答者数 | 579 | 648 | 111 | 83 | 145 | 1,566 |

伊勢市に住んでいたいと思いますか。（1つに○）

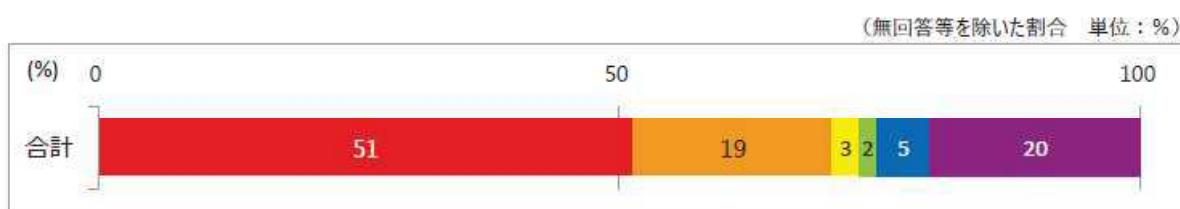
- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. このまま永住したい ■ 3. 一度は市外に転出したいが、いずれ戻ってきて住み続けたい ■ 4. いずれ市内の別の地区に移転したい ■ 6. わからない・特に考えていない | <ul style="list-style-type: none"> ■ 2. 当分住み続けたい ■ 5. いずれは市外に移転したい |
|--|--|

○単純集計

「1. このまま永住したい」の割合が半数を超えてます。

| 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 無回答 | 合計 |
|------|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-------|
| 回答者数 | 772 | 287 | 38 | 26 | 77 | 303 | 63 | 1,566 |

(単位：人)



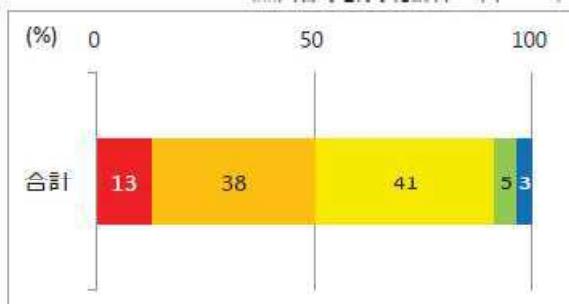
子育てのしやすさについて

あなたにとって、今の伊勢市は子育てしやすいですか。（1つに○）

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 子育てしやすい ■ 4. どちらかといえば子育てしにくい | <ul style="list-style-type: none"> ■ 2. どちらかといえば子育てしやすい ■ 5. 子育てしにくい |
|--|--|

○単純集計

(無回答等を除いた割合 単位：%)



「3. どちらともいえない」の割合が多くなっているものの、「1. 子育てしやすい」「2. どちらかといえば子育てしやすい」の割合がほぼ半数となっています。

| 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 無回答 | 合計 |
|------|-----|-----|-----|----|----|-----|-------|
| 回答者数 | 174 | 517 | 567 | 71 | 46 | 191 | 1,566 |

②市が特に力を入れるべき取組について

伊勢市が今後、特に力を入れて取り組むべきことはどれだと考えますか。
(あてはまるものすべてに○)

○単純集計

「12. 高齢者支援に関する取組」と回答された方が、最も多く55%となっています。次いで「14. 防災対策の強化」、「10. 医療の充実、健康づくり、感染症予防等に関する取組」が多くなっています。



(4) 伊勢市観光客実態調査報告書（令和元年）

□調査の目的

伊勢市を訪れる観光客の旅行目的、来訪手段、滞在種別（日帰り・宿泊）、立寄り箇所数、消費額、満足度等など行動実態に関する調査（観光客実態調査）を実施し、その特性、傾向等を分析することにより本市の観光の実態を明らかにし、観光施策の効果的な推進を図る。

□調査地点

外宮周辺（外宮前広場）、内宮周辺（おかげ横丁）、二見（二見浦公園駐車場）、河崎（河崎商人館周辺）

□調査対象

調査地点を訪れた観光客 1,600 人以上を対象

□回収結果

| | 全体 | 外宮周辺 | 内宮周辺 | 二見 | 河崎 |
|--------|------------------|--------------|--------------|--------------|------------|
| 目標数（人） | 1,600 | 455 | 620 | 410 | 55 |
| 回収数（人） | 1,745 (1,654) | 506 (477) | 671 (643) | 511 (489) | 57 (45) |
| 達成率（%） | 109.1 | 111.6 | 107.9 | 124.6 | 103.6 |

※調査時は市民を除外しないが、分析以降は市民を除く

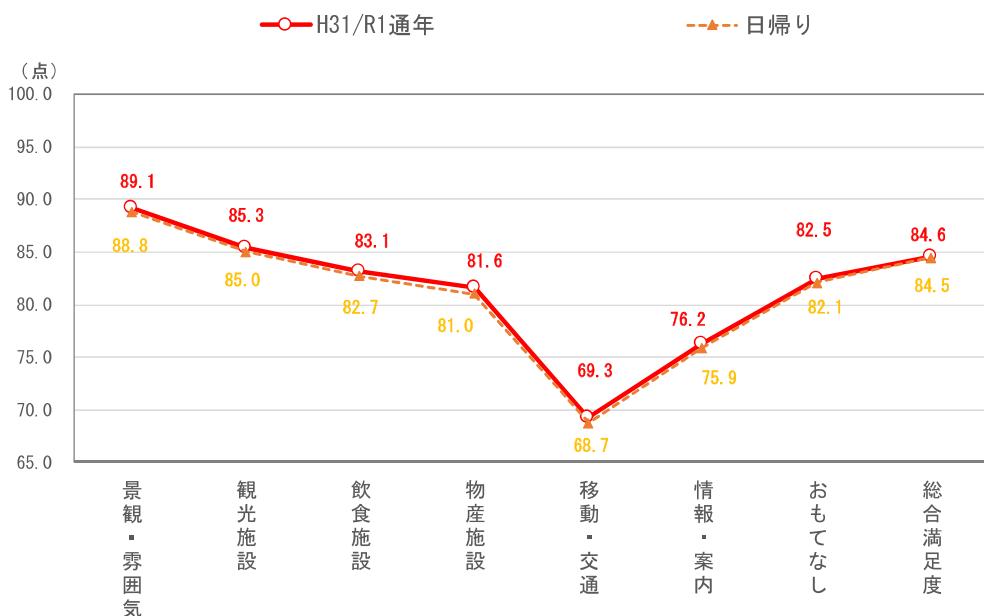
※回収数のうち、上段は市民を含んだ人数、下段（括弧内の数値）は市民を除いた人数

※各期の目標数は、累積の調査実績を考慮して都度設定をしたため、年間目標とは一致しない。合計の達成率は年間目標 1,600 人に対する達成率として算出した。

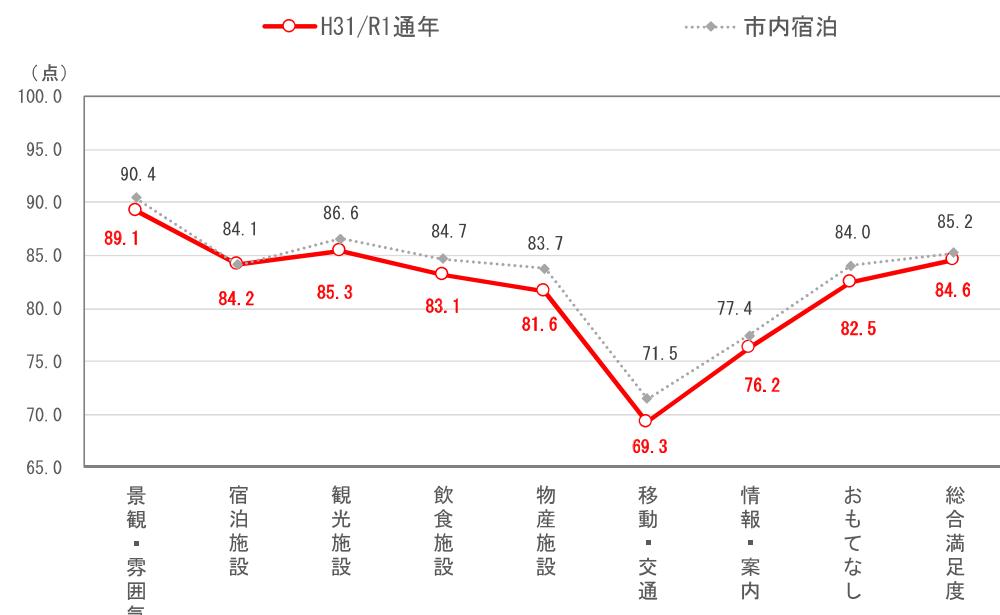
① 観光客満足度

観光客の満足度について、日帰り客及び市内宿泊客別にみると、「総合満足度」では84.6点、「日帰り客」では84.5点、「市内宿泊客」の85.2点となっています。

■図表 観光客満足度の平均点（日帰り客）



■図表 観光客満足度の平均点（市内宿泊客）

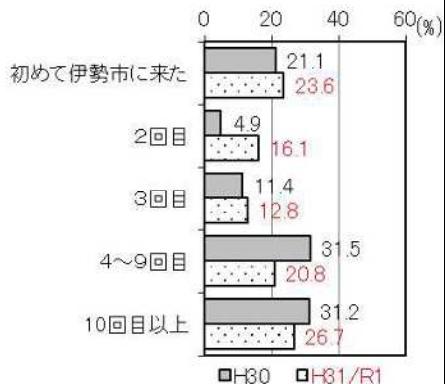


全体的に伊勢市に来ていたいている観光客の満足度は高いが、「移動・交通」を不満と感じている人が多く、駐車場やバスが混んでいる、交通の便が悪いなどが理由に挙がっている。

②訪問回数

訪問回数について、「10回以上」が最も多く26.7%、次いで「初めて伊勢市に来た」が23.6%、「4~9回目」が20.8%と続いており、『4回以上』が4割以上となっています。

| 項目 | 実数(人) | | 構成比(%) | | 前年差 (ポイント) |
|-------------|-------|--------|--------|--------|---------------|
| | H30 | H31/R1 | H30 | H31/R1 | |
| 1 初めて伊勢市に来た | 355 | 390 | 21.1 | 23.6 | 2.5 |
| 2 2回目 | 82 | 267 | 4.9 | 16.1 | 11.2 |
| 3 3回目 | 191 | 211 | 11.4 | 12.8 | 1.4 |
| 4 4~9回目 | 530 | 344 | 31.5 | 20.8 | ▲ 10.7 |
| 5 10回目以上 | 524 | 442 | 31.2 | 26.7 | ▲ 4.5 |
| 合計 | 1682 | 1654 | 100.0 | 100.0 | 0.0 |



③旅行目的

旅行目的について、「参拝」が最も多く79.1%、次いで「おいしいものを食べる」が47.7%、「街並みや賑わいを楽しむ」が11.7%と続いている。平成30年と比べると、「参拝」が2.3ポイント、「温泉・お風呂を楽しむ」が1.1ポイント増加していますが、「街並みや賑わいを楽しむ」が5.3ポイント、「自然や風景を見てまわる」が4.1ポイント減少しています。

| 項目 | 実数(人) | | 構成比(%) | | 前年差 (ポイント) |
|----------------------|-------|--------|--------|--------|---------------|
| | H30 | H31/R1 | H30 | H31/R1 | |
| 1 参拝 | 1292 | 1308 | 76.8 | 79.1 | 2.3 |
| 2 おいしいものを食べる | 835 | 789 | 49.6 | 47.7 | ▲ 1.9 |
| 3 自然や風景を見てまわる | 252 | 181 | 15.0 | 10.9 | ▲ 4.1 |
| 4 海辺でゆったり | 29 | 17 | 1.7 | 1.0 | ▲ 0.7 |
| 5 街並みや賑わいを楽しむ | 286 | 193 | 17.0 | 11.7 | ▲ 5.3 |
| 6 温泉・お風呂を楽しむ | 81 | 97 | 4.8 | 5.9 | 1.1 |
| 7 テーマパークや水族館 | 50 | 58 | 3.0 | 3.5 | 0.5 |
| 8 地場産品の購入 | 67 | 63 | 4.0 | 3.8 | ▲ 0.2 |
| 9 祭りやイベント | 63 | 39 | 3.7 | 2.4 | ▲ 1.3 |
| 10 スポーツ | 5 | 12 | 0.3 | 0.7 | 0.4 |
| 11 海水浴 | 5 | 9 | 0.3 | 0.5 | 0.2 |
| 12 体験(伝統工芸・和菓子づくりなど) | 6 | 2 | 0.4 | 0.1 | ▲ 0.3 |
| 13 仲間と過ごす | 101 | 89 | 6.0 | 5.4 | ▲ 0.6 |
| 14 帰省・冠婚葬祭 | 18 | 12 | 1.1 | 0.7 | ▲ 0.4 |
| 15 特に目的はない | 18 | 9 | 1.1 | 0.5 | ▲ 0.6 |
| 16 その他 | 91 | 129 | 5.4 | 7.8 | 2.4 |
| 合計 | 1682 | 1654 | 100.0 | 100.0 | 0.0 |



④ 立ち寄った観光地

立ち寄った観光地について、「伊勢神宮 内宮」が最も多く 79.1%、次いで「おかげ横丁・おはらい町」が 78.1%、「伊勢神宮 外宮」が 43.3%と続いており、平成 30 年と比べると、「伊勢神宮 内宮」が 5.1 ポイント、「伊勢神宮 外宮」が 17.3 ポイントそれぞれ減少しています。

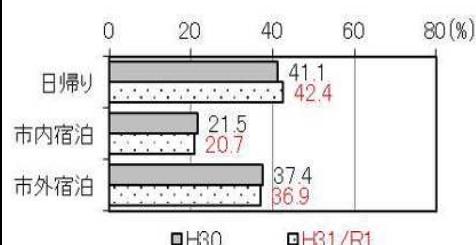
| 項目 | 実数(人) | | 構成比(%) | | 前年差 (ポイント) |
|----------------------------|-------|--------|--------|--------|---------------|
| | H30 | H31/R1 | H30 | H31/R1 | |
| 1 外宮参道 | — | 683 | — | 41.3 | — |
| 2 月夜見宮 | 61 | 62 | 3.6 | 3.7 | 0.1 |
| 3 伊勢神宮 外宮 | 1020 | 716 | 60.6 | 43.3 | ▲ 17.3 |
| 4 せんぐう館 | 0 | 7 | 0.0 | 0.4 | 0.4 |
| 5 猿田彦神社 | 179 | 150 | 10.6 | 9.1 | ▲ 1.5 |
| 6 月読宮 | 42 | 55 | 2.5 | 3.3 | 0.8 |
| 7 おかげ横丁・おはらい町 | 1383 | 1292 | 82.2 | 78.1 | ▲ 4.1 |
| 8 伊勢神宮 内宮 | 1416 | 1309 | 84.2 | 79.1 | ▲ 5.1 |
| 9 姥姫宮 | 19 | 22 | 1.1 | 1.3 | 0.2 |
| 10 神宮美術館 | 7 | 10 | 0.4 | 0.6 | 0.2 |
| 11 神宮歴古館・農業館 | 15 | 12 | 0.9 | 0.7 | ▲ 0.2 |
| 12 伊勢河崎商人館 | 77 | 49 | 4.6 | 3.0 | ▲ 1.6 |
| 13 松尾観音寺 | 6 | 5 | 0.4 | 0.3 | ▲ 0.1 |
| 14 二見浦海水浴場 | 16 | 19 | 1.0 | 1.1 | 0.1 |
| 15 賀日館 | 12 | 9 | 0.7 | 0.5 | ▲ 0.2 |
| 16 二見興玉神社／夫婦岩 | 629 | 599 | 37.4 | 36.2 | ▲ 1.2 |
| 17 伊勢夫婦岩ふれあい水族館 シーパラダイス | 76 | 46 | 4.5 | 2.8 | ▲ 1.7 |
| 18 伊勢夫婦岩めおと横丁 | 92 | 41 | 5.5 | 2.5 | ▲ 3.0 |
| 19 民話の駅 蘇民 | 9 | 0 | 0.5 | 0.0 | ▲ 0.5 |
| 20 伊勢忍者キングダム | 13 | 9 | 0.8 | 0.5 | ▲ 0.3 |
| 21 金剛證寺 | 25 | 17 | 1.5 | 1.0 | ▲ 0.5 |
| 22 郷の恵・風輪 | 0 | 0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 合計 | 1682 | 1654 | 100.0 | 100.0 | 0.0 |



⑤ 宿泊

宿泊の有無について、「日帰り」が 42.4%、「市内宿泊」が 20.7%、「市外宿泊」が 36.9%となっており、平成 30 年と比べると、「市内宿泊」が 0.8 ポイント減少しています。

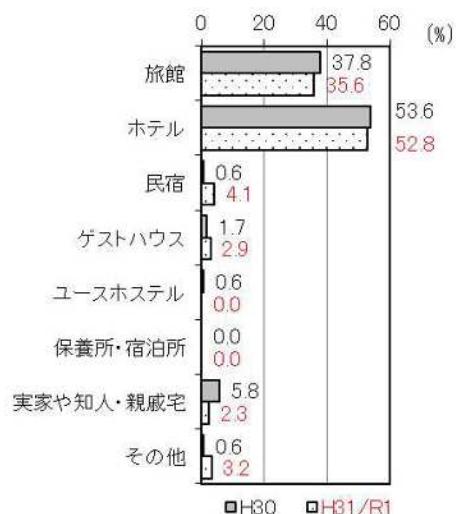
| 項目 | 実数(人) | | 構成比(%) | | 前年差 (ポイント) |
|--------|-------|--------|--------|--------|---------------|
| | H30 | H31/R1 | H30 | H31/R1 | |
| 1 日帰り | 691 | 701 | 41.1 | 42.4 | 1.3 |
| 2 市内宿泊 | 362 | 343 | 21.5 | 20.7 | ▲ 0.8 |
| 3 市外宿泊 | 629 | 610 | 37.4 | 36.9 | ▲ 0.5 |
| 合計 | 1682 | 1654 | 100.0 | 100.0 | 0.0 |



⑥宿泊施設

伊勢市内で宿泊する人の宿泊施設の種類について、「ホテル」が最も多く 52.8%、次いで「旅館」が 35.6%、「民宿」が 4.1%と続いており、平成 30 年と比べると、「民宿」が 3.5 ポイント、「ゲストハウス」が 1.2 ポイント増加し、「実家や知人・親戚宅」が 3.5 ポイント、「旅館」が 2.2 ポイント減少しています。

| 項目 | 実数(人) | | 構成比(%) | | 前年差 (ポイント) |
|-------------|-------|--------|--------|--------|---------------|
| | H30 | H31/R1 | H30 | H31/R1 | |
| 1 旅館 | 137 | 122 | 37.8 | 35.6 | ▲ 2.2 |
| 2 ホテル | 194 | 181 | 53.6 | 52.8 | ▲ 0.8 |
| 3 民宿 | 2 | 14 | 0.6 | 4.1 | 3.5 |
| 4 ゲストハウス | 6 | 10 | 1.7 | 2.9 | 1.2 |
| 5 ユースホステル | 2 | 0 | 0.6 | 0.0 | ▲ 0.6 |
| 6 保養所・宿泊所 | 0 | 0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 7 実家や知人・親戚宅 | 21 | 8 | 5.8 | 2.3 | ▲ 3.5 |
| 8 その他 | 2 | 11 | 0.6 | 3.2 | 2.6 |
| 合計 | 362 | 343 | 100.0 | 100.0 | 0.0 |

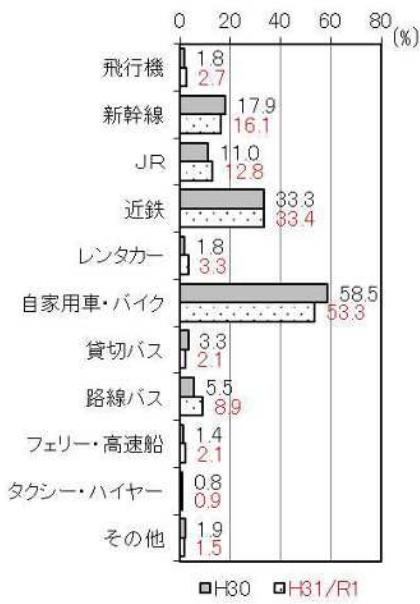


中心市街地内にもゲストハウスが増えてきており、今後 PR により宿泊客が伸びると予想される。

⑦利用した交通機関

利用した交通機関について、「自家用車・バイク」が最も多く 53.3%、次いで「近鉄」が 33.4%、「新幹線」が 16.1%と続いており、平成 30 年と同様、自家用車・バイクの利用が多い傾向にあります。また、平成 30 年と比べると、「自家用車・バイク」が 5.2 ポイント減少し、「路線バス」が 3.4 ポイント増加しています。

| 項目 | 実数(人) | | 構成比(%) | | 前年差 (ポイント) |
|--------------|-------|--------|--------|--------|---------------|
| | H30 | H31/R1 | H30 | H31/R1 | |
| 1 飛行機 | 31 | 45 | 1.8 | 2.7 | 0.9 |
| 2 新幹線 | 301 | 267 | 17.9 | 16.1 | ▲ 1.8 |
| 3 JR | 185 | 211 | 11.0 | 12.8 | 1.8 |
| 4 近鉄 | 560 | 552 | 33.3 | 33.4 | 0.1 |
| 5 レンタカー | 31 | 55 | 1.8 | 3.3 | 1.5 |
| 6 自家用車・バイク | 984 | 881 | 58.5 | 53.3 | ▲ 5.2 |
| 7 貸切バス | 56 | 35 | 3.3 | 2.1 | ▲ 1.2 |
| 8 路線バス | 93 | 148 | 5.5 | 8.9 | 3.4 |
| 9 フェリー・高速船 | 23 | 34 | 1.4 | 2.1 | 0.7 |
| 10 タクシー・ハイヤー | 14 | 15 | 0.8 | 0.9 | 0.1 |
| 11 その他 | 32 | 25 | 1.9 | 1.5 | ▲ 0.4 |
| 合計 | 1682 | 1654 | 100.0 | 100.0 | 0.0 |



[4] これまでの中心市街地活性化に対する取組の検証

(1) 前回計画（第1期計画）の概要

【計画期間】平成28年4月から令和3年3月（5ヶ年）

【区域面積】約153ha

【基本的な方針及び目標】

○中心市街地活性化のビジョン

～暮らしやすく、また訪れたくなる、伊勢のまち～

○基本方針

- ① お伊勢さんならではの魅力創出によるおもてなしの観光づくり
- ② 日々の安心な居住環境づくりと、これを支える便利で快適な商店街づくり
- ③ 培われてきた地域資源や都市基盤を活かしたまちづくり
- ④ 地域住民や来訪者の安全・安心を支えるやさしいまちづくり

○目標

| 目標 | 目標指標 | 基準値 | 目標値 | 最新値 | 基準値からの改善状況 | 令和元年度の見通し |
|----------------------------------|---------------------|------------------------|----------------------|-----------------------|------------|-----------|
| 中心市街地の魅力増進によるにぎわいの創出とまちなかの回遊性の向上 | 商店街の歩行者通行量 | 2,957人 (H26年度) | 3,105人 (R2年度) | 2,547人 (R元年度) | C | ① |
| | 【参考指標】伊勢市駅北側の歩行者通行量 | 1,316人 (H27年度) | — | 819人 (R元年度) | — | — |
| 商店街の魅力創出による商業の活性化 | 空き店舗率 | 33.9% (H26年度) | 26.4% (R2年度) | 34.7% (R元年度) | C | ③ |
| 都市機能の強化によるまちなか定住の促進 | 人口の社会増減 | △160人 (H22～26年度の合計) | ±0人 (H28～R2年度の合計) | △95人 (H28～R元年度の合計) | B | ③ |

(2) 事業の進捗状況

第1期計画では、基本方針に基づき定めた、「中心市街地の魅力増進によるにぎわいの創出とまちなかの回遊性の向上」「商店街の魅力創出による商業の活性化」「都市機能の強化によるまちなか居住の促進」の3つの目標達成に向け、計38事業（ハード事業8事業、ソフト事業30事業）を推進した。ハード事業のうち5事業が完了または完了予定であり、残り3事業は協議等を重ね進めている。

□実施事業

| | 事業数 | 完了 | 実施中 | 未実施 |
|--------------|---------|---------|---------|-----|
| 市街地の整備改善 | 7 | 4 | 3 | 0 |
| 都市福祉施設の整備 | 1 (2) | 1 (2) | 0 | 0 |
| まちなか居住の推進 | 3 (6) | 0 (2) | 3 (4) | 0 |
| 商業の活性化 | 25 | 5 | 20 | 0 |
| 公共交通機関の利便性向上 | 2 | 0 | 2 | 0 |
| 合計 | 38 (42) | 10 (13) | 28 (29) | 0 |

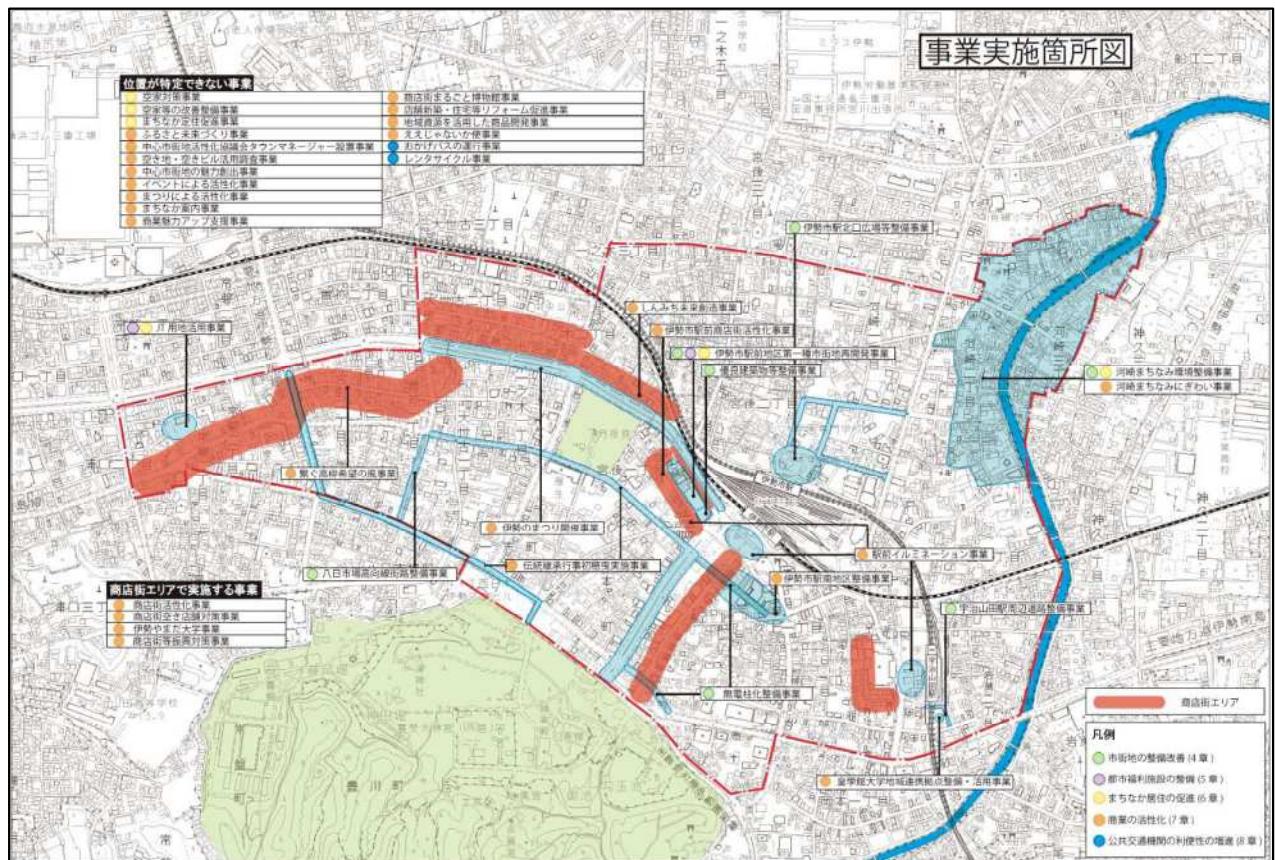
() 内は再掲事業を含めた事業数

□進捗状況

| 事業番号 | 事業名 | 状況 | 備考(計画期間内の変更等) |
|------|--------------------------|-----|---------------|
| 1 | 伊勢市駅前地区第一種市街地再開発事業 | 完了 | |
| 2 | 無電柱化整備事業 | 完了 | |
| 3 | 河崎まちなみ環境整備事業 | 実施中 | |
| 4 | 優良建築物等整備事業 | 完了 | |
| 5 | 宇治山田駅周辺道路整備事業 | 完了 | |
| 6 | 八日市場高向線街路整備事業 | 実施中 | |
| 7 | 伊勢市駅北口広場等整備事業 | 実施中 | |
| 8 | JT用地活用事業 | 完了 | |
| 9 | 空家対策事業 | 実施中 | 第5回変更にて新規追加 |
| 10 | 空家等の改善整備事業 | 実施中 | |
| 11 | まちなか定住促進事業 | 実施中 | |
| 12 | 商店街活性化事業 | 完了 | |
| 13 | 商店街空き店舗対策事業 | 実施中 | |
| 14 | 伊勢のまつり開催事業 | 実施中 | |
| 15 | 駅前イルミネーション事業 | 実施中 | |
| 16 | 伝統継承行事初穂曳実施事業 | 実施中 | 第5回変更にて事業名変更 |
| 17 | ふるさと未来づくり事業 | 実施中 | 第2回変更にて新規追加 |
| 18 | 店舗新築・住宅等リフォーム促進事業 | 実施中 | |
| 19 | 商業魅力アップ支援事業 | 実施中 | |
| 20 | 中心市街地活性化協議会タウンマネージャー設置事業 | 実施中 | |
| 21 | 空き地・空きビル活用調査事業 | 完了 | |
| 22 | 繋ぐ高柳希望の風事業 | 実施中 | 第3回変更にて新規追加 |
| 23 | 商店街等振興対策事業 | 実施中 | 第5回変更にて新規追加 |
| 24 | 伊勢やまだ大学事業 | 実施中 | |
| 25 | 河崎まちなみぎわい事業 | 実施中 | |

| | | | |
|----|--------------------|-----|-------------|
| 26 | 地域資源を活用した商品開発事業 | 実施中 | |
| 27 | 中心市街地の魅力創出事業 | 実施中 | |
| 28 | イベントによる活性化事業 | 実施中 | |
| 29 | まつりによる活性化事業 | 実施中 | |
| 30 | まちなか案内事業 | 実施中 | |
| 31 | 商店街まるごと博物館事業 | 完了 | |
| 32 | ええじゃないか便事業 | 完了 | |
| 33 | 皇學館大学地域連携拠点整備・活用事業 | 実施中 | 第1回変更にて新規追加 |
| 34 | 伊勢市駅前商店街活性化事業 | 実施中 | 第2回変更にて新規追加 |
| 35 | しんみち未来創造事業 | 実施中 | 第2回変更にて新規追加 |
| 36 | 伊勢市駅南地区整備事業 | 完了 | 第2回変更にて新規追加 |
| 37 | レントサイクル事業 | 実施中 | |
| 38 | おかげバスの運行事業 | 実施中 | |

□事業実施箇所



(3) 目標指標の達成状況

①【指標①】商店街の歩行者通行量

●調査結果の推移



※調査方法：土曜日の9時～18時に中心市街地内の5地点を通過する歩行者及び自転車を計測

※調査月：令和2年3月

※調査主体：伊勢まちづくり株式会社及び伊勢市

※調査対象：中心市街地内の商店街に設けた5地点の歩行者及び自転車の通行量

●指標の達成状況及びその要因分析【C】

歩行者通行量は、平成26年度から平成29年度まで減少しているが、平成30年度は増加に転じた。しかし、令和元年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、全国的に人の移動が自粛されたことにより、平成30年度と比べて331人の減少となった。

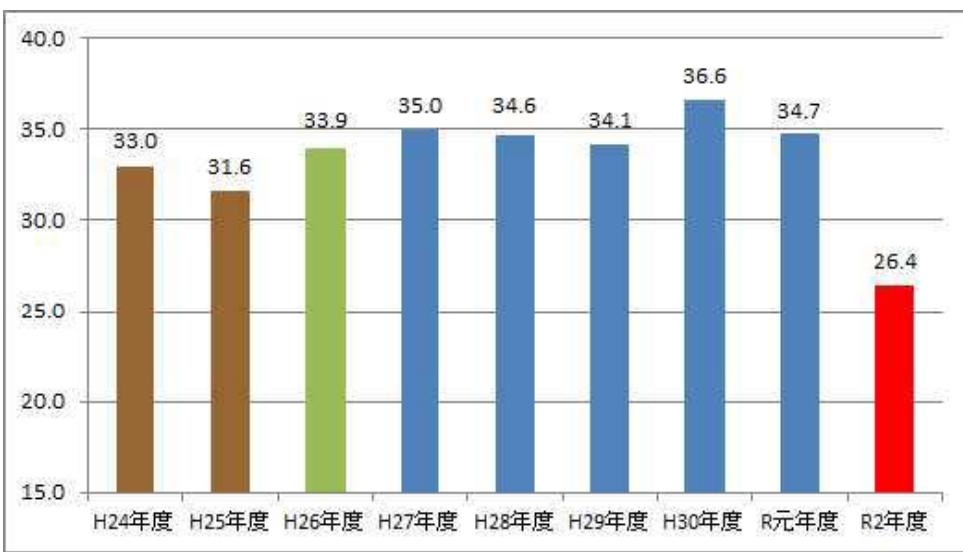
伊勢市駅前周辺における優良建築物等整備事業（平成28年11月開業）や伊勢市駅南地区整備事業（平成30年6月開業）における民間事業者によるハード整備、それに合わせ空き店舗への新規店舗の開業が相ついだことで、伊勢市駅前商店街及び南地区近隣の外宮参道の歩行者数が増加するなど、観光・交流活動拠点としてのぎわいの創出に大きく寄与している。

また、「伊勢市駅前地区第一種市街地再開発事業」による複合施設の完成により、周辺商店街での更なるぎわいの創出も期待できる。

しかし、他の商店街の歩行者通行量は減少傾向にあり、ぎわいの効果が中心市街地全域に波及されていないと考える。今後は、各商店街の発展を目的としたビジョンに基づいた空き店舗対策や情報発信、自分達が実施するイベントだけでなく、民間イベントとの連携支援などの活動を進め、中心市街地活性化協議会が商店街での事業の進捗管理や課題を把握し、的確な助言や専門人材による支援サポート事業を提案していく必要がある。

②【指標②】空き店舗率

●調査結果の推移



| 年度 | (%) |
|-----|---------------|
| H26 | 33.9 (基準値) |
| H27 | 35.0 |
| H28 | 34.6 |
| H29 | 34.1 |
| H30 | 36.6 |
| R1 | 34.7 (最新値) |
| R2 | 26.4 (目標値) |

※調査方法：現地確認及び聞き取り

※調査月：令和2年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地内の5つの商店街

●指標の達成状況及びその要因分析【C】

空き店舗率は、平成27年度から平成29年度までは低下しており、平成30年度は悪化したもの、再び令和元年度は改善された。

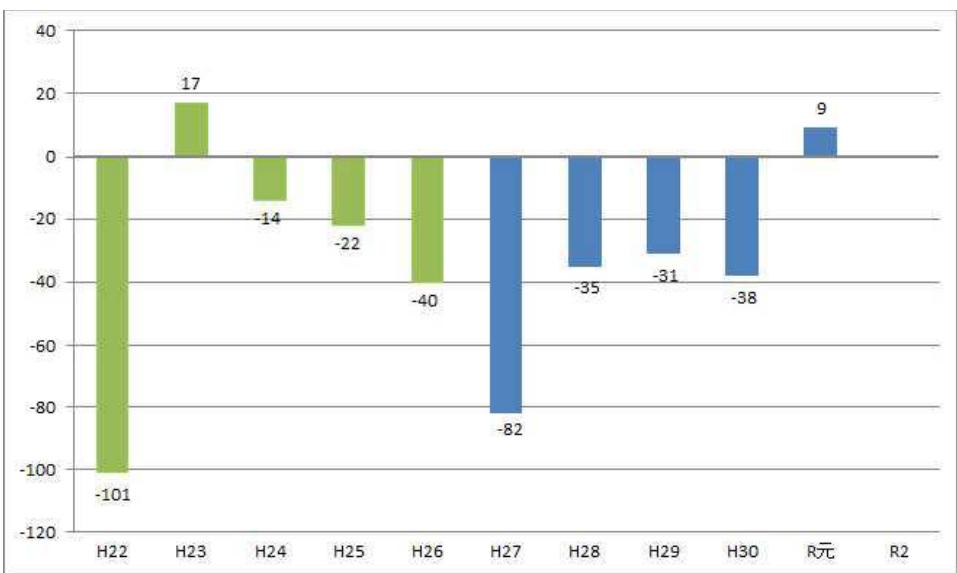
空き店舗活用制度の実施や拠点施設の整備などにより、伊勢市駅前商店街や近隣の外宮参道は、空き店舗が減少しているが、他の4商店街については、空き店舗が増加している状態である。制度の利用件数は増加しているが、商店街全体での効果は見えていないため、利用しやすい仕組みや周知方法について、引き続き検討が必要である。

空き店舗が増加している要因としては、後継者不足等による閉店、老朽化し安全を確保できない建物や店舗・住居一体型の建物が多いことから空き店舗であっても貸出や売却する家主が増えないことがある。

一方で、商店街への出店希望は継続的に需要があることから、空き店舗オーナーが理解を深め自己資産の活用意識をもつように働きかけると同時に、出店希望者とのマッチングの仕組みの検討が必要であったため、第1期では各商店街の組合活動の活発化を図り土台固めを行った。

③【指標③】人口の社会増減

●調査結果の推移



| 年度 | (人) |
|---------|---------------------------|
| H22～H26 | -160 (基準値) |
| H27 | -82 |
| H28 | -35 |
| H29 | -31 |
| H30 | -38 |
| R元 | 9 (最新値) -95 (累積) |
| H28～R2 | ±0 (目標値) |

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：平成31年4月～令和2年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地内

●指標の達成状況及びその要因分析【B】

令和元年度の社会増減は、市外からの転入や市内転居による増加は例年並みであったが、市外への転出が少なかったため、9人の増加となった。

伊勢市・商工会議所・タウンマネージャー・産業支援センターで構成する、まちなか移住に関する検討会議（移住創業促進会議）を平成30年に立ち上げ、毎月移住に関する取組の検討を行い、移住者向けのイベント（いせ移住体感ツアー）を開催するなど、起業者や移住者の取り込みに力を入れおり、毎年少人数ながら一定数の参加があるため、移住に繋がる兆しがある。

また、非耐震の木造空家除却に対する補助金利用が急増し、地域の安全性は改善されてきているが、空家の有効的な利用を促進する空家バンク制度では、創設から1年半が経過し、物件登録数等は増えているものの、中心市街地内での登録数が少なく、成約に結び付けることが出来ていない。今後も、空家バンク制度の更なる啓発による登録物件の増加や、地域住民等が実施している空家対策と連携し制度の定着を図ることが必要である。

(4) 定性的評価

①地域住民の意識の変化

伊勢市の中心市街地に関する市民アンケートを実施し、基本計画に基づく取り組みについて、市民意識の変化や市民ニーズについて分析した。

計画の開始前と比較して、「かなり活性化した」が8%、「少し活性化した」が48%となっており、56%が活性化したと評価している。

しかし、中心市街地に必要と感じる施設の1位である商業施設は50%（H27年度）から65%（R元年度）に上がっており、市民ニーズに応える商業環境が十分に整ったとは言えない状況である。

平成27年度に伊勢市中心市街地活性化基本計画を策定し、平成28年度から中心市街地の活性化に取組んでいます。計画を策定した平成27年度以降で、中心市街地は活性化したと感じていますか。（1つに○）

令和元年度

- | | |
|---|--|
| ■ 1. かなり活性化した | ■ 2. 少し活性化した |
| ■ 3. 変化していない | ■ 4. 悪化した |
| □ 5. わからない | |

○単純集計

（無回答等を除いた割合 単位：%）

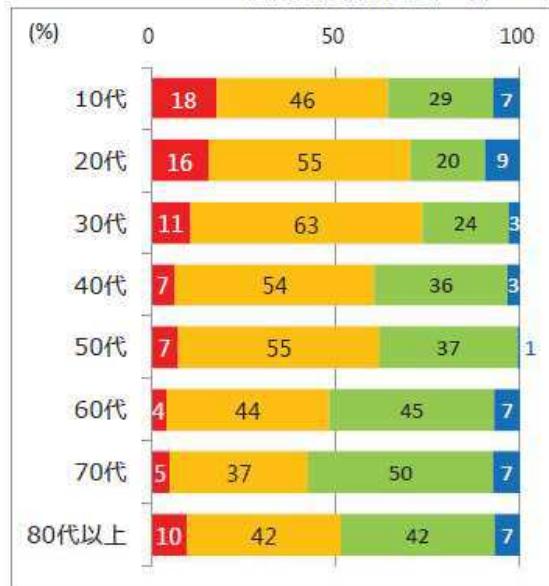


「2. 少し活性化した」の割合が高く、「1. かなり活性化した」と合わせると50%を超えていますが、「3. 変化していない」の割合は39%となっています。

（単位：人）

○年代別集計

（無回答等を除いた割合 単位：%）



若い世代ほど「1. かなり活性化した」「2. 少し活性化した」の割合が高くなる傾向があります。

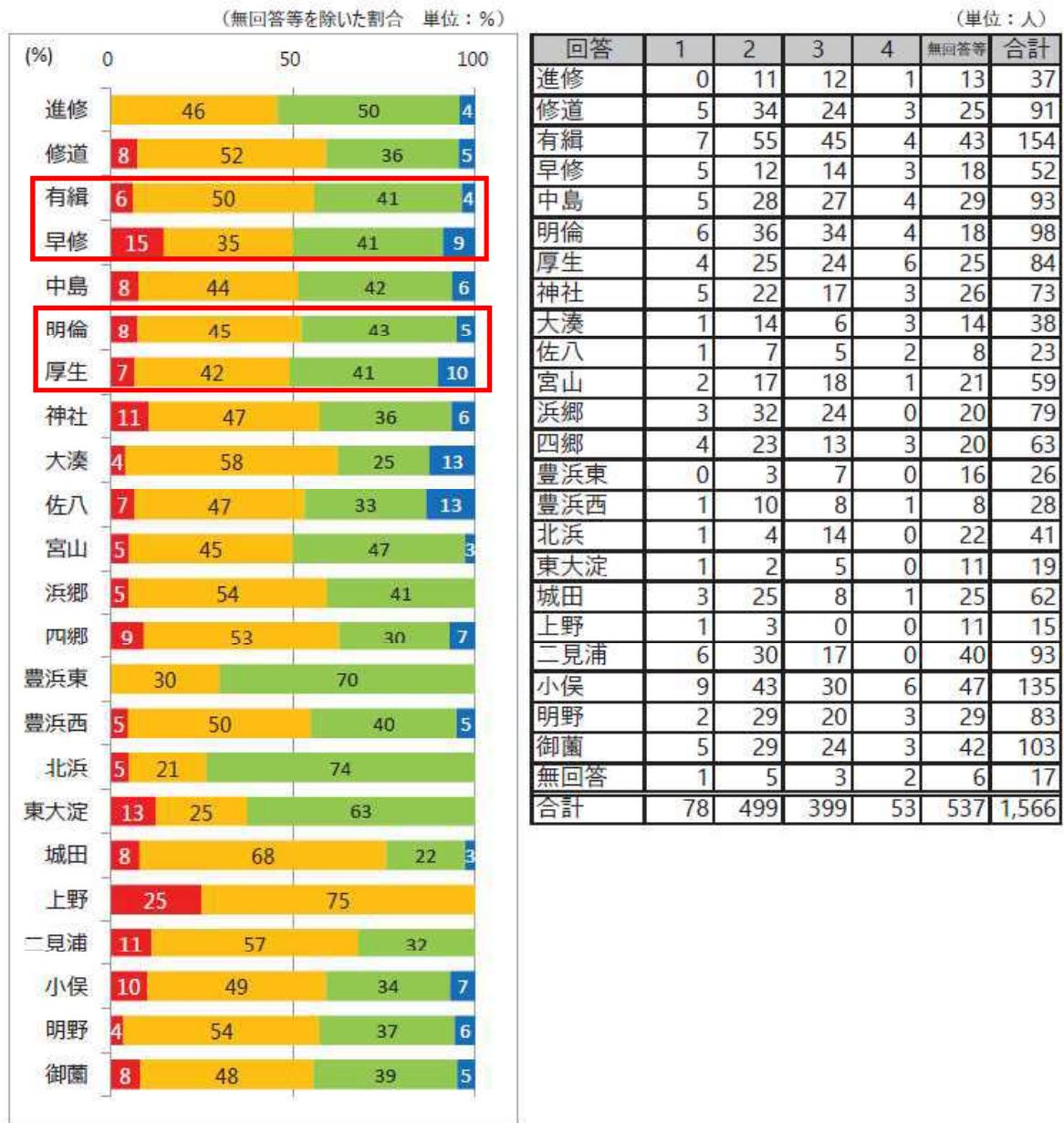
（単位：人）

| 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 | 無回答等 | 合計 |
|-------|----|-----|-----|----|------|-------|
| 10代 | 5 | 13 | 8 | 2 | 18 | 46 |
| 20代 | 10 | 35 | 13 | 6 | 32 | 96 |
| 30代 | 11 | 64 | 24 | 3 | 49 | 151 |
| 40代 | 10 | 82 | 55 | 5 | 66 | 218 |
| 50代 | 12 | 89 | 61 | 1 | 62 | 225 |
| 60代 | 9 | 96 | 97 | 15 | 85 | 302 |
| 70代 | 10 | 73 | 98 | 14 | 144 | 339 |
| 80代以上 | 10 | 43 | 43 | 7 | 77 | 180 |
| 無回答 | 1 | 4 | 0 | 0 | 4 | 9 |
| 合計 | 78 | 499 | 399 | 53 | 537 | 1,566 |

○小学校区別集計

上野で「1. かなり活性化した」の割合が高くなっています。

北浜、豊浜東、東大淀で「3. 変化していない」の割合が高くなっています。



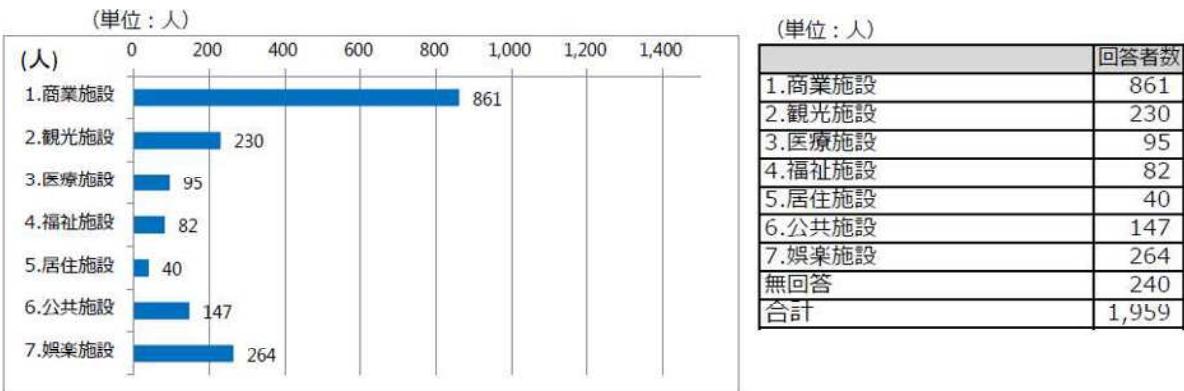
若い世代ほど、平成27年より中心市街地が活性化したと感じる割合が高くなっているが、かつてのにぎわいを体感している世代は、まだ物足りなく感じているように推測される。また、中心市街地内や隣接区域など、中心市街地へ訪れる回数が多い地区的住民は、中心市街地は活性化してきていると感じており、中心市街地から離れ来訪頻度が少ない、北浜、豊浜東、東大淀では、変化していないと感じている人が多い。

中心市街地が活性化するために必要であると考えられる施設

平成 27 年度

○単純集計

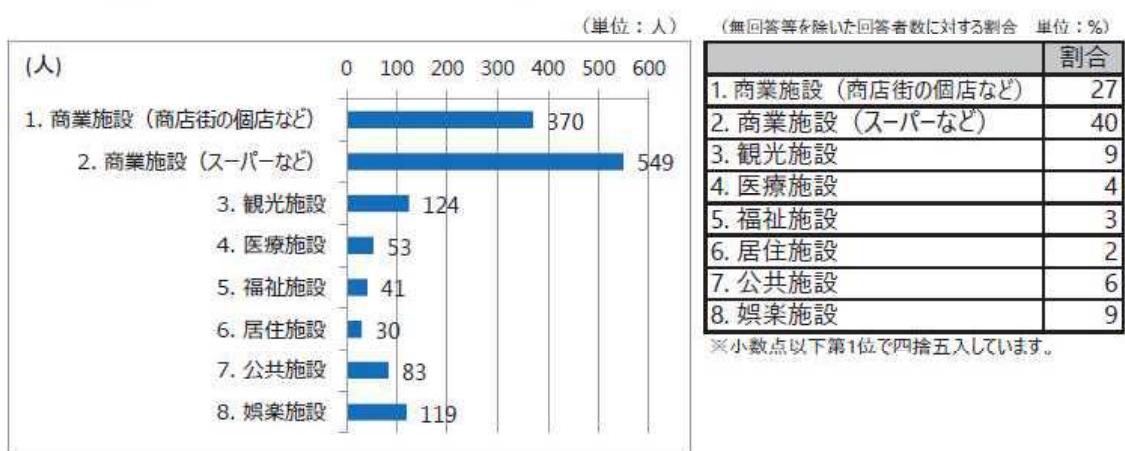
「1.商業施設」が非常に多くなっています。次いで「7.娯楽施設」が続きます。



令和元年度

○単純集計

「2.商業施設（スーパーや大型商業施設）」が非常に多く、「1.商業施設（商店街の個店や専門など）」と合わせると、商業施設が必要であると回答された方は67%となっています。



②中心市街地活性化協議会の意見（令和2年定期フォローアップに関する報告）

令和元年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

伊勢市中心市街地活性化基本計画は認定から4年が経過した。「NO.07 優良建築物等整備事業」により整備された三交イン伊勢市駅前は開業から3年、「NO.35 伊勢市駅南地区整備事業」の民間事業者によるコンフォートホテル伊勢は令和2年6月で2年、民間事業者が建替えたゲストハウス風見荘はオープン（平成30年11月）から1年半が経過し、伊勢市駅前の変化が落ち着いてきた一方、「NO.06 伊勢市駅前地区第一種市街地再開発事業」のB地区工事が令和元年6月から開始され、中心市街地は継続的に更新を続けている。

「NO.36 繋ぐ高柳希望の風事業」は、中心市街地商業活性化診断・サポート事業プロジェクト型を令和元年度も申請。被災空地活用の事業計画及び商店街周辺エリアビジョンのブラッシュアップを行う検討会を4回実施。商店街有志で新会社を設立し商店街活性化のための事業計画をまとめ、令和2年度から事業に取組む予定である（コロナウイルスの影響より事業開始時期は未定）。

「NO.33 伊勢市駅前商店街活性化事業」では、これわ伊勢モールの再整備の協議、プロモーションムービーの作成、「NO.34 しんみち未来創造事業」では、商店街通りの下水道整備工事の協議が進み、一般客・観光客及び新規出店者の受入れ体制が進捗した。協議会構成員である浦之橋商店街では、皇學館大学と連携しSNS委員会を立上げ、インターネットを活用したPR事業を開始した。各商店街のビジョンに基づく事業活動を、協議会が支援することで更なる活性化に繋げていく。

「NO.11 まちなか定住促進事業」では、伊勢市4課、伊勢商工会議所、伊勢まちづくり（株）が出席する移住創業促進会議を平成30年度から開始し2年目を終えた。月1回の定例会議及び移住PR事業を実施。「いせ移住体感ツアー」として行政2回、民間1回が実施された。ツアーレースの参加人数が課題であり、令和2年度に伊勢市に設置されたシティプロモーション係と連携した積極的な働き掛けが望まれる。

活性化の目標に掲げる指標「商店街の歩行者通行量」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止による不要不急の外出自粛要請のため、対前年比で大きく減少したが、上記に示した事業のとおり商店街における事業は順調に進捗しているため“①”と評価された。「空き店舗率」、「人口の社会増減」においては昨年度よりも改善されたが、事業の進捗と成長の遅れから“③”という評価となった。

これらの目標達成に向けては、外宮の鳥居前町で育まれた「お伊勢さん文化」の中で商売、事業を続けてきた民間団体、民間事業者（伊勢まちづくり（株）を含む）がまちづくりの主体となり、行政が常に寄り添いサポートを行う官民連携の体制が重要である。一例として各商店街組織は、タウンマネージャーの支援により活動の促進が図られたが、さらなる商店街の活性化にむけ、当協議会の支援は必要不可欠である。タウンマネージャーが当協議会構成委員（伊勢市、伊勢商工会議所、伊勢まちづくり（株）、伊勢市観光協会他）と密な情報交換を行うことにより、各々の課題を当協議会で整理することが可能となり、県、国とも支援策を検討することができる。

中心市街地活性化の3つの指標を達成すべく、日本の心のふるさと伊勢にふさわしい取組を、構成員の密な連携によって進める必要がある。

(5) 総括

第1期計画では、中心市街地の活性化に向け、①商業環境、居住環境、交通環境、歴史的環境等を含めた総合的な視点での整備と②多様なニーズに対応する戦略的な視点での取組の両面から、市民にとって便利で快適で魅力ある中心市街地を目指し取組を行ってきた。駅周辺の地区では、施設整備（伊勢市駅前A地区優良建築物等整備事業、B地区市街地再開発事業など）のハード事業や飲食店等が増加したこと、人のにぎわいが現れ雰囲気が大きく変わってきた。商店街においては、空き店舗対策等のソフト事業の実施や、タウンマネージャーの支援により商店街組合の活動が活発になり、一部地域で効果が出ているが、中心市街地全域では、依然空き店舗が多く見られ、にぎわいの効果が波及されているとは言えない。

また、市民アンケート調査では、中心市街地が活性化したという結果を得たものの、商店の後継者問題、建物の利用形態や老朽化、社会的な人口減少などの要因により、商業環境については市民ニーズに対応できておらず、中心市街地が十分に活性化しているとは言い難い。

しかし、各商店街でも、商店街ビジョン作成や中小機構の支援を活用した空き店舗を減らす事業の組立を行っており、商店街組合の気運は高まりつつある。

まちなか居住について、移住創業推進会議を立ち上げ、相談会やイベントなど空家等の改善支援の周知をしているものの、地方都市の社会的減少に歯止めをかけるまでには至らず、人口増加の成果を得ることができていない。

前計画において、駅前周辺を中心ににぎわいの改善が見られたことは大きな成果であり、このにぎわいを中心市街地全域に拡大していくことが課題である。

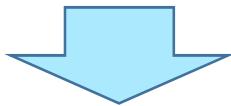
[5] 中心市街地活性化の課題

これまでの第1期計画の取組評価、中心市街地の現状、市民アンケート、観光実態調査などから中心市街地活性化への課題を次のように整理する。

①商業・回遊に関する事項

現状・問題点

- ・多様な都市機能集積地域、かつ、広域郊外への交通結節拠点
- ・歩行者通行量の減少、まちなかの回遊性の不足
- ・にぎわいによる回遊性や空き店舗の改善効果が駅前周辺に限定して発現
- ・空き店舗の増加、雇用機会の減少
- ・事業承継ができず、老舗が閉店
- ・商業の活気を感じていない人が多い
- ・商業施設の需要が高い
- ・投資できる土地がない
- ・大型店舗立地の郊外化
- ・卸小売業の活力低下
- ・地価の下落
- ・高齢化による人材不足



活性化に向けた課題

- ・人や車の流れを分析し、道路や広場、公共交通機関等の利便性の向上を図る環境整備が必要
- ・民間投資しやすい環境整備が必要
- ・中小企業・小規模事業者に向けての事業承継支援や既存商店への投資支援が必要
- ・出店舗を増やすことによる雇用創出が必要
- ・商店街が主体となった事業に対する官民連携のバックアップが必要
- ・地域エリアの隔たりなく回遊できるような仕組みづくりが必要
- ・中活事業のPR(若者向け)とシビックプライドの育成が必要

②暮らしに関する事項

現状・問題点

- ・空き地・空家の増加
- ・居住人口の減少、小規模世帯の増加
- ・高齢人口及び割合の増加が市全体と比べ特に進んでいる
- ・世代層の居住の入れ替わりがなく、若者世代が郊外へ移住
- ・高齢、障がい、子育て、生活困窮など重層化・複雑化した課題を抱えた世帯の増加
- ・地域住民参画のまちづくりを重要視
- ・多くの地区が津波浸水や洪水浸水想定範囲内



活性化に向けた課題

- ・住みよいまちのPRや体感できる事業の取り組みが必要
- ・多様なニーズに対応し、既存ストックを活用したまちなか居住の検討が必要
- ・高齢者、障がい者、子ども、生活困窮者など全世代を対象とした包括的な相談支援が必要
- ・高齢者や子どもなど全ての人に優しい生活環境づくりが必要
- ・地域住民が積極的に街なかのにぎわい活動を行える環境が必要
- ・暮らしを支え、多様なコミュニティ機能を活用し、住民や来訪者のための充実したにぎわい拠点が必要
- ・津波浸水や洪水浸水対策が必要

③観光に関する事項

現状・問題点

- ・神宮を中心とした歴史的観光資源の活用
- ・神宮（外宮）の鳥居前町として栄え、様々な人々が交流し多様な文化が形成されたまち
- ・中心市街地への移動手段は、車の割合が高い
- ・駅周辺の宿泊施設が増加
- ・夜間早朝の移動手段不足
- ・観光客の70%以上がリピーター
- ・観光客の大半は内宮のみの片参り



活性化に向けた課題

- ・内宮のみの参拝者を外宮及び中心市街地内に誘導する必要がある
- ・鳥居前町としてふさわしく、地域住民、観光客が駅周辺や歴史的地域資源、商店街を楽しく回遊・観光できるまちづくりが必要
- ・まちづくり会社による地域DMOを活用した取組連携が必要
- ・観光資源を磨き上げ、市内周遊を推進し、滞在時間の延伸を図ることが必要
- ・伊勢を語れる市民力の向上、次世代育成
- ・宿泊施設増加による夜のにぎわいの創出（ナイトタイムエコノミー）の必要
- ・夜間早朝の移動手段の利便性向上を図る環境整備が必要
- ・次期式年遷宮に向けたまちづくり

【6】中心市街地活性化の方針（基本的方向性）

第2期では、商業における雇用機会の改善対策、中心市街地での居住人口対策、歴史・文化を活用した観光対策を中心に、住民と来訪者に選ばれるまちづくりを進めていく。

①伊勢市の中心市街地活性化のビジョン

～働きやすく、暮らしやすい、歴史と文化を感じる

伊勢のまち～

それぞれの地域の魅力を引き出し、高め、住民と来訪者が快適で安全に回遊できるまちをつくることで、地域から中心市街地全体へとにぎわいを発展させる。

伊勢の中心市街地は、鳥居前町として発展してきた「山田」のまちで、古くから自治組織が設立されるなど、各地域で独自のまちづくりが行われてきた。そのなかで先人が守り続けてきた自然や伝統、培われてきた文化や「おもてなしの心」などのまちの誇りを、現在の「伊勢人」^{いせびと}*が受け継ぎ、醸成させながら次世代へ継承していく。このことを踏まえ、以下のとおり整理する。

働きやすく

地元のニーズに応える魅力的な商店街づくりと、創業や雇用機会を生む環境づくりに向け、官民が連携して取組み、地域経済の再生・発展を目指す。

暮らしやすい

良好な居住環境の整備や空家等の有効な利活用を図るとともに、地域住民が「思いやりの心」、「支えあいの心」を大切にし「おかげさまの心」を育むことで、「住みたい」「住み続けたい」と感じるまちを目指す。

歴史と文化を感じる

伊勢人が伊勢のまちに誇りと愛着を持ち、郷土愛を醸成するとともに、観光客が伊勢人と交流することで、伊勢らしい歴史・文化を知り、「おもてなし」の心が感じられる魅力とにぎわいがあふれる「何度も訪れたい」と思うまちを目指す。

*「伊勢人」とは、「市民」を強調した呼び方です。（ここで「市民」は、住民だけでなく、事業者、市内在勤者・在学者及び市内で活動する団体等も含んだ広い意味で捉えています。）

（出典：第3次伊勢市総合計画 基本構想より）

②基本方針

第1期計画では、都市機能の集積を図り、魅力ある空間をつなぐことで、地域住民や来訪者が快適で、安心して回遊できるまちを目指し取組を進めた。その結果、一部地域で取組の効果が表れたが、中心市街地全体でみると、居住人口の減少、老朽化した空家や空き店舗、未利用地の増加など、いくつもの課題が相関し、解消されていないのが現状であり、第2期計画では前計画からの継続した取組だけでなく、新たな取組にも着手していく必要がある。

伊勢のまちづくりは、伊勢神宮の式年遷宮にあわせて進められており、20年に一度執り行われるご遷宮のたびに、交通網や施設の整備が行われ、まちが生まれ変わり、その度に新たにぎわいを生み出してきた。令和7年からは次期式年遷宮行事が始まり、多くの観光客が訪れることから、次期遷宮を目指し、その特性を活かした交流機能の強化を図り、住民目線での安全・便利な生活環境改善に加え、商業・観光観点でのまちなかのにぎわい創出などの取組が今後更に必要である。

これらの課題をふまえ、下記のとおり基本方針を設定する。

基本方針 1

地元のニーズに応える魅力的な商店街づくりと、回遊性のあるまちづくり

伊勢市駅前周辺地区の再開発事業等により、にぎわいの中心となる施設の整備を行うとともに、商店街振興対策や創業支援、伊勢やまだ大学の活動などのソフト事業により、各商店街の魅力を上げることで、伊勢市駅周辺から各商店街への人の流れをつくり、中心市街地全体へにぎわいを広げていくまちづくりを推進する。

基本方針 2

歩いて生活しやすく、安全に暮らせるまちづくり

再開発事業による新規住居の確保や空家等改善による良好な居住環境の形成、高齢者等へも配慮し、災害にも対応した安全な道路環境の整備など、総合的に都市機能を更新するまちづくりを推進する。また、各地域での課題解決や活性化を図るため、自主的な活動を行う自治会等への支援を行い、地域活動の活発化とコミュニケーションの構築を推進する。

基本方針 3

地域資源の魅力創出と発信、「おもてなしの心」によるまちづくり

世界に誇れる伊勢特有の歴史・伝統・文化行事・食などの魅力的なコンテンツの発信、観光資源の活用、伊勢人と観光客が一体になった、「見る」だけの観光ではなく、「聞く・体験する」といった五感を活かしたイベントを実施するとともに、様々な観光客が安心してまちを楽しめるような交通機能・都市基盤を整えることで、観光客の増加や中心市街地の更なる魅力向上を推進する。

また、新たなまちの魅力発掘と、伊勢人がまちに誇りをもち、愛着を感じられるような地域振興、それらを次世代へ繋いでいく担い手の育成を推進する。